



潛齋

篋  
鱸  
輪

下

方竟千梅

~ 5  
4838  
2



門 5  
號 4838  
卷 2

一錢亭

早稲田大學 圖書  
昭和 27.6.30  
藏 書

復 纒 輪 卷之五

方竟千梅選



活法之書伊呂波寄内名目而已  
出テ難辨物并蕉門去嫌大畧



以

一 岩船山 河内ノ国交野ノ郡ニ有山頂ニ大サ五丈ハカリ  
ノ岩ニテ造リタル船アリ人作ニアラス 神物ノ神書ニ  
下照姫 大國主命ノ天ノ磐船ニ乘シテ高津山ニ  
降臨シ玉フト云岩船トシ下照姫ノ社ハ撰列  
高津ニ有リ今世俗仁徳天皇ノ社ト云爰ニ仁徳  
帝ノ御歌モアハ後人同社ニ祀レルモノカ其岩船  
河内ノ国ニ止テ岩船山ト云高津ノ社ノ舊地ト相去

コト三里ノ活法ノ書ニ岩船水辺ニアラス山類ト記セル  
モノ慥ニ此岩船ノコトシサラハ句ニヨリ神祇ニ成ヘシ  
仁徳天皇  
飛ヒカケルアノ岩船尋子ラソ高津ノ里ニ宮作リケル

一 岩橋 二所有リ井手ノ岩橋 又米ノ岩橋シ山城ノ国  
井手ノ岩橋ハ水辺シ 又米ノ岩橋ハ高山ノ切途ニ  
カ、リテ水辺ニアラス 昔役ノ行者此山ニ入テ山神ニ  
岩橋ヲ造ラシム此神女神ニシテ其貌ノ甚カクキ醜ミナクキヲ  
耻テ夜ノ三出テ橋ヲ造リ侍ル依テコレヲ人  
目ノ岩橋トモ云リ是大和国葛城山一名金剛山ニ在  
此山大和河内兩國ニ属ス  
名寄集  
通ヒコレ井手ノ岩橋タトルテ取セサラス咲ル山ヲキ

拾遺集 岩橋ノ夜ノ契モ絶ヌヘシ明ルロシキ葛城ノ神

一 命ニタニキワル七句去タニキワルト云詞ハ魂タニキハニル竅ノ  
略語ナレハ命キワル意シ

一 伊勢ノ神ハ非名取ニ名神名取ニアラスト云下ニ委記

一 偽ニ真ニ二句去 是人ノ意詞同胸中ヨリ出ル  
コトナレハ去嫌フシ 凡テ上下黑白輕重厚薄等  
ノ文字ハ互ニ去嫌ナレ

一 漁イカリトハカリハ夜分ニアラス水辺ノ三シ

一 イワケナキ 幼童ノコトシキコイ言ワケナキト云略シ

一 出ル日 活法ノ書ニ非朝晩イハ方ニト記セリ是人ノ身上

ナドノ盛ナルヲタトエテ云カ又ハ天ノ磐戸ノコト云  
句ハイカニモ非朝時分ニ句ニ依テ僉議スヘシ

一 イモセ 人倫妹ハイモ婦フ脊ハセ夫フシ 名取ノ妹脊山ハ

大和紀列ニ説シ

古今流レテハイモセ山ノ中ニ落ル吉野ノ河ノヨシヤ世ノ中  
或ハ又紀ノ河ヅラノ妹ト脊ノ山トモヨマリ

一 イモガリ 母ノモトヘ行クシ

古今思ヒカ子妹ガリ行ケハ冬ノ夜ノ河風寒ニ子島ナクシ

波

一 花 一件ノコト予カ袖中正花傳ニ委ケルハ此ニ畧ス

一 濱ハミ庇 濱エ浪ノ打上ケタル研ノ形チ庇ニ似タル云シ

非居取ニ又濱ノ家居ニ庇ノアル家ヲモ云然ル時ハ  
居取水辺勿論シ

一 初汐 尚フ八月ノ大汐ニ初ノ字用ユルハ不審シ曰

初ノ字ニアラス或記ニ葉月ハツキノ汐ト云略シト云リ  
此説最ヨロシ知月サ皐月ノ波ヲウナシ  
サナミト云シト云ニ

一 畑 畠 二字トモニ倍字シ村上ノ朝ヨリ此兩字ヲ用ユ  
ト古記ニエタリ正字圃ハタケシ和尔雅ニ本朝ノ俗謂テ  
水田ミヅノヲ為田タテト稱陸田リクノ謂畑ハタケト記セリシタマキニ  
畑山類ハタケノト記ノ山類ノ部ニモ出セリ非山類ニ陸田  
ノ名シ箱根ノ畑ト云ハ取ノ名シ山類シ不可混ス

一 秤ハカリ 子ギコギレイテング 杠秤ケギハ大秤ハカリシ鍵カギノ付ツケタルモノシ  
レイテングトハ銀秤ギンノ稱シテ釐リン等具トウクシ唐韻ノ  
訛言ヒソカニトソ毫釐カウリヲ正ス具ト云コトシ

一 初モトモ 元服ノコトシ

源氏イトケナキ初モトモニ長キ世ヲ契カケ心ハ結ヒコトツヤ

一 ハチフク 源氏ノ詞シ蜂吹ハチシ松風ノ卷ニ鼻ウチ  
アカメツハチブキ云ハバト云ニ其外若菜ノ卷  
ニモ此言アリ信ニ蜂拂フト云意ノ詞シ

一 化物 夜方ヨルシ非生類ニ

一 蓮上ノ契 活法戀トセリ一蓮托生ト云ハ釈  
教ノ言シ一槩ニ不可論ス

仁

一 鳩ニホニ 湖ニホノ海 鳥ノ名ト海ノ名ナレハ付テ不苦ト活  
法ノ書皆記セリ蕉門面ハヲ嫌フニホハ湖水ノ和  
名シ故ニニホテル比叡トモニホテルヤ矢橋ヤハセノ浦トモ

ヨメリニホノ海トハ湖水ニ限ノ名シ此海ニニホ鳥  
沢山ニ生育シテ湖中東西南北居ラヌ取ナケ  
レハニホノ海ト云シ湖ノ字ツニホト和訓スルモ此  
鳥ヨリ名付タルコト明シ然レハ同意ノ物シ湖ノ  
ウミ鳩ニホトリ同シ面ニスヘカラス鳩信字シ鳩ノ字宜  
トソ一名カイツフリ關東ノ方言ムグツ鳥

一ニゲナシ 似氣無シ 似合ヌト云詞シ源氏ナトニ  
多ク出タル言葉シ

一執ニエルツニエト云ハ人ニ令ル食物ヲ云シ 公ニ献ヲシ  
御執ニエト云神ニ供スルヲ云シ 神執ニエト云フ 調テ之ヲ

取ヲ執殿ト云シ

一ニハタツミ 元トハ庭タマリ水ノ略語シ 然トモ潦ニハタツミノ  
字有テ庭ノタマリ水バカリヲ云ニアラス道路  
牛馬ノ足跡ニ溜リタル水ニテヲ潦ト云レハ蕉  
門居取トセス庭ノ字水ノ字ニハ二句去シ

保

一ホテクロシ 源氏ニ内ニニテ腹立ルシ腹グロニ思ホシ  
玉フト取ニ見エタリ或ハ子タニシキ事又常ハラ  
ダツツモ腹黒ト云リ 和字書ニ肥腹フヲホテ  
ハラト訓ス畿内江東辺ノ俗腹フヲホテト云リ  
ホテ黒シハ則腹黒シ或ハ罷ナクニホコリテ惡

ヘキモノ ワルジヤレニテイヤラシキ者ヲホテ名  
シイヤツト云し句ニヨツテ戀ニモ成ヘシ

一 陪堂 ホイトウ 釈教トス庭訓ノ抄ニ飯采ヲ副僧ソノシト

記セリ又僧家ノ一説無役不用ノ僧ヲ云  
トソ北国ニテモ食ヲホイタウト云何ニ卑  
賤ノ僧ノ称シ

一 辺 ベシノ面 大壓面ト云能ノ偶面ナシシ兔面ニ似タリ

一 ベキベシハ 文字ニアラス手介於葉シ中ニアラハ  
二句去 留リニアルハ三句去ヘシ

一 遠山鳥ノ狩衣 コロモ 衣ノ模様シ後撰集ニシノビテ

通ヒケル女ノモトヨリ 狩装束送リテ侍リケルニ  
摺レル狩衣ニテ侍リケルハ 元良ノ御子  
逢コトハ遠山鳥ノカリ衣キテハ甲斐ナキ音ツシノ海  
山鳥ノ形ヲ摺リタル狩衣ニテ有ケルトナン

一 床ノ浦 床ノ海 トコノ山 床ノ字ニ面嫌フモノノ内

出セリ此中ニトコノ山ハ床ノ字ニアラス鳥籠ノ  
山シ江列ノ名取シ床ノ字ニカミイナシ但シ床  
意ニ云イカケタル句ナラハ見渡遠慮スヘシ

一 豊ノ御狩 天子ノ御狩ヲ云シ仁徳天皇ノ

鴨野ノ御狩 雄略帝ノ猪名野ノ御狩ナトシ  
又豊ノ御祓トハ大嘗會ノ御穰ヲ云シ

一 遠里小野 栲列ノ名取シ住吉ノ東ニ有昔此取ヨリ

始テ燈シ油ヲ榨出サリトソ今ニ住吉ノ神燈ノ油ハ當取ヨリ  
遠里小野トモ云歌ニハトツガト小野トヨメリ  
新勅撰 住吉ノ岸ノ嵐モ霞ニシ遠里小野ノ春ノ曙

一 直宿モル 主君或ハ尊貴ノ寝取ツ守ル夜詰  
ノ役シ俗ニ云泊リ番

一 魚ヲトト云ハ上古ノ詞ニテ今モ上ニツカタニテハ

トトノタニヘリ毛詩ニ魚服トトノヤナグイト  
訓讀セルモ本邦ノ詞魚ニトトノ名有ルヲカリ  
用ヒタルモノシトソ毛詩ノ魚服ハ海獸ノ皮ノヤナ  
クイシ委註ニニユ

一 父ヲ鄙俗トト云フ 爺ニ又爹ニシ兩字  
共ニトトノ通音シ

一 鳥カ鳴ノ東 蓬囊抄ニ云中記ニ曰ク東南ニ  
桃都山アリ山上ニ大樹ノ桃有枝相去ルコト  
三千里上ニ有天雞日初テ出テ桃樹ヲ照ス  
時天雞發聲ヲ天下ノ家雞皆傳之ヲ鳴ト



云ニコレヲ本據トシテツケタル詞トシ東国ヲ  
フツミト云事日本武尊ヨリ始ル世知ル取シ

一外ノ衛 職原ニ曰ク外衛ト云ハ六衛府ノ中<sup>ウチ</sup>左右

ノ衛門督左右ノ衛門佐此四官ハ禁中ノ外門  
ヲ衛護スル役ナレニ依テ外衛ト名ト云ニ

一常盤木ノ落葉 松竹ノ落葉雜ナト、記セリ

古翁ノ句ニ 清滝ヤ波ニ散コム青松葉  
是松ノ落葉シ 夏ノ證句シ竹モ是ニ准スヘシ

知

一茶 活法ノ書ニカキ茶 新茶春シト記ス凡ソ

茶摘ト云ト新茶ト云ニ差別アリ故ニ春<sup>ハル</sup>夏ノ論

アリ三月ノ部ニモ略<sup>ワカ</sup>記スソレ茶ハ洛東建仁寺ノ

岡山千光国師宋ニ入テ好茶ノ種ヲ携来リ後チ

梅ノ尾ノ明惠上人ニ與テ依テ梅ノ尾ニ植<sup>ウ</sup>始<sup>メ</sup>之<sup>ヲ</sup>

後鳥羽院ノ御時シ其後宇治ニ移ス從是先<sup>ニ</sup>本

朝ニ茶有リトイヘドモ可<sup>ク</sup>賞翫<sup>ス</sup>モノニアラストソ然レハ

茶ハ宇治シ元トス茶摘春ト究メタル宇治ノ茶摘シ

其嫩<sup>ヤカ</sup>葉ヲ摘ムユニ他列ヨリ廿日餘モ早ニ他列ニ

茶ヲ摘ムハ四月半五月エカ、ル翁ノ句ニ

木<sup>コ</sup>カクレテ茶ツミモ聞ヤホト、キス

是世間茶ヲツム時候セラレタル句シ扱新茶

云時ハコレヲ製シ納メテ諸国エ配リ出シ或ハ先<sup>ニ</sup>

ニテ賞味スル時ツ云然レハ其勿論シ既ニ其切  
茶ト云モ六月ノ取ニ出タリ是則新茶シサレハ  
茶ツミカキ茶葉撰ナト云句其時節ガフトモニ  
宇治ト聞ユルハ最春新茶ツ風味シ又其句ニ等  
ヲ賞スル句ハ其之季細ニ辨スレハ如是先ハ茶  
摘春新茶其ト可心得コレ師説シ

一 千鳥ノ滝 栲列ノ名取シ滝ハ都ヲ水辺山類ニ  
シカレトモ此滝ハカリハ山類トスヘカラス  
深山カト思ヒ来ヌレハサハナクテ千鳥ノ滝ニ以ソ満ル

一 陣ノ座 禁裏東ノ建春門ハ左衛門ノ陣西ノ眞秋門  
右衛門ノ陣ト云シ又御即位或ハ節會等ノ御義  
式ニ席ヲ構エテ其日ノ事ヲ主<sup>ツギト</sup>大臣ノ居取シ  
陣ノ座ト云シ

一 利 一リ番ノ句 一ケリナリタリトカハリテハ二句者  
同シ番ノハ三句去ヘシル番ヲモ准レ之ニ

一 奴 一スキテ 衣類ヨリ<sup>タキ</sup>抜出シタル綿シ依テ綿ニ面ヲ  
嫌フ或ハ七句去ナト、セリサレトモ棉ノ花ナト、云  
句ハカミロナシ畑ニ有ル植物シ三句去ハ猶可シ

一 盗人 緑林 白波 須利 皆夜分勿論シ 緑林

漢書 劉玄カ傳ニミエタリ 白波ハ同書ニ黃巾、  
賊起<sup>ル</sup>西河ノ白波谷ニ是ヲ白波ノ賊ト云リ  
須利トハ盜人ノ梵語トソ

一 布ニフトヨミサヨミ有<sup>リ</sup>トモニ粗布<sup>シ</sup> 太<sup>ト</sup>給<sup>ヨミ</sup>ハ細<sup>サ</sup>給<sup>ヨミ</sup>  
對スルノ名ニシテ粗布<sup>アラフ</sup>尤<sup>シ</sup>以<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>云<sup>ハ</sup>細給<sup>ハ</sup>上  
布ノ稱ナルヘキ筈<sup>シ</sup>シカ<sup>レ</sup>ニ世俗<sup>サ</sup>イミト稱スルハ  
至<sup>テ</sup>粗布<sup>シ</sup>是取<sup>チ</sup>カエ<sup>ズ</sup>イ誤<sup>ルト</sup>ミエタリヨトイ  
トハ通音<sup>シ</sup>畿内江東邊職婦ノ詞ニ布<sup>シ</sup>織<sup>リ</sup>  
ハシムル時<sup>タテ</sup>經<sup>ノ</sup>系<sup>ヲ</sup>箴<sup>ニ</sup>通<sup>ス</sup>ニヨミ<sup>シ</sup>ハツ<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>、  
九<sup>ツ</sup>ニイルト云フ按<sup>ニ</sup>此<sup>ヨミ</sup>給<sup>ノ</sup>字<sup>シ</sup>

一 塗師 人倫 塗師屋ト云ハ非<sup>ニ</sup>人倫<sup>ニ</sup>是活法ノ例<sup>シ</sup>  
凡<sup>テ</sup>師ノ字者ノ字匠ノ字ノ付クモノ皆人倫ニシテ  
屋ノ字付ケハ人倫道<sup>ト</sup>ト云定メナレトモ打越<sup>ノ</sup>句<sup>ニ</sup>  
繪師トアルニ吳服屋ガ来<sup>テ</sup>ナド、云ハ人倫道<sup>ル</sup>キ  
ニアラス餘<sup>ハ</sup>皆准<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>捻<sup>シテ</sup>俳諧<sup>事</sup>毎<sup>ニ</sup>控<sup>シ</sup>  
待<sup>ツ</sup>ハ愚<sup>シ</sup>一理<sup>ヲ</sup>通<sup>ナレ</sup>ハ能<sup>ク</sup>考<sup>カ</sup>自<sup>知</sup>ノス<sup>ヘシ</sup>

留

一 一<sup>ル</sup>ランハ二字假名<sup>シ</sup>三字ガナト心得<sup>テ</sup>多ク嫌フ  
輩<sup>アリ</sup>歸<sup>ル</sup>ラン殘<sup>ル</sup>ラン<sup>シ</sup>字<sup>ハ</sup>上ノ文字<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>  
依<sup>テ</sup>二句<sup>去</sup>留<sup>ニア</sup>ラハ三句<sup>去</sup>ヘシ

一 瑠璃鳥 活法雜トスル書アリ非<sup>レ</sup>ルリ頼赤秋

ノワタリ鳥シ

遠

一 女 イヒカヘテモ只一ツト書ニ記セリ是應安式ノ趣シ  
俳諧ニ入用ノ文字シ 女一ツ 女ノ間ニ一ツ 女一ツ  
以上三ツ 其外ニメ山メ松 女竹等ノ人倫ニナラヌ女  
ノ字七句去 蕉門ノ活法シ

一 シドロ イハラ 茨棘ノコトシ 然ルニツタニキニ此下ニシダト記

イハラト齒朶トハ大違ナルモノシ 是慥ニホドロノ取違ナルヘキカ  
ホドロハ蕨ノ老ナルハ齒朶ト類同シキモノトモ云ヘシ

一 ツタニ木 是菑椽ノ木シ 女エノ亭環ニ不可混

袂衣 谷フカク立ツツタニ木ハ我ナレヤ思フシモヒノ村テヤミス

一 塘 ラキ 字書ノ註ニ盆中ノ火ツツキト云 焯ノ字宜シト

云ニ畿内西土ノ俗 竈ノ火ツ都ラツキト云

和

一 ハスレ州 數品アリ先ツ萱州クシヤウツ云又サ芦ツモ云フシ  
軒ノ忘州ト云ハ尾松ニ是ヲシノフ州トモ訓ス常  
シノフ州ニ似テ又小シ古キ軒或ハ北面ノ久キ尾ニ  
生ス七月八月ノ頃花アリ黄ニ甚タ小ニシテミエ  
カタシ是軒ノシノフ一名忘州シ

一 鷲ノ峯 鶴ノ林ハ 山類ニアラス 植物ニアラス 應安

式ノ定シ梅ニ是他邦ノコトナレハ假連俳ノ句ニストモ  
其取ニイタリ其山ニ遊フ句ハ有ヘカラス只佛ノ説  
法ノ地及入涅槃ノ取ト云洲汰ノ三ニ然レハ山類  
植物トシテ去嫌フニヨシナシト云趣意シ凡テ古法  
如是ノ了簡シ以テ究メタルコト往ニアリ

一 和田ノ原 大洋ノ搦名シ或ハワタワミトモ云リ又和田ノ  
三崎 和田ノ入江ナト云ハ横列ノ名取ニワタノ原  
ヤソ嶋カケテト詠ルナト名取ノ哥ニアラス只行衛  
モシラ又海ニ夕、ヨヒ出ルト云意シ八十嶋モ名取シ  
イハ出羽ノ国ニノレトモ此哥ハ只嶋ノ多キシ  
云ルハ八重ノ汐路ト云ニ同シ古今集此哥ノコト書

小野ノ篁隱岐国ニ流サレケル時船ニ乗リテ出立  
トテ京ナル人ノモトヘヨミテ遣ハシケルト云ニ

一 ワキモコ 吾妹子シ 毒ニ面嫌フ 人丸

万葉 ワキモコカ子ノ夕レ髪シ猿沢ノ池ノ玉藻トミルソ悲シキ

一 若葉トハカリハ木ノ若葉シ 叶ノ若葉ハ其叶シ云シ

加

一 鐘 應安式ノ法ハ夜分シ然レトモ俳諧ニハ鐘トハカリ

ハ夜分トセス 全躰夜分ト聞テ句ハ論ニ不及

一 喝食 カツレキ 釈教人倫シ又船ノ食物ヲ製スル者ツ俗

カウシキト云 誹諧ニハ、出ツ勿論非<sub>ニ</sub>釈教<sub>ニ</sub> 按<sub>ニ</sub>是ハ  
炊人<sub>カシキ</sub>ニテ有<sub>一</sub>キ名ナルヲ 訛リ云習ハシタルナルヘシ俳諧  
ニハ世語ノ一、用ユルモ可シ

一 鴈<sup>カリ</sup> 春秋ニ一ツ宛ガント春秋ノ内ニ一ツ 残ル鴈又  
其鴈ノ内ニ一ツ以上四ツシ 春秋カハリテモガント  
二取ハナシ 初鴈<sup>カリ</sup>又只鴈<sup>カリ</sup>ト二取ハスヘシ活法ノ  
書、此アヤ分チカタシ依テ蕉門ノ定ヲ記ス

一 垣<sup>ハ</sup> 居取ノ用シ依テ居取ニ二句去シ然トモ垣ニヨルシ  
苗代田畑等ノ垣ハ居取去嫌ナシ然ルヲ活法ノ書  
苗代田畑等ノ垣居取ニ二句去ト念入テ記シケリ

是古書ノ誤ヲ傳エテ師説ニ疎キ故ニ如此道理ナキ  
指合ガイテクルシ 居取ト云ハ家宅藏部屋ニ  
階等シソレニ田畑苗代ノ垣何ヲ以テ去嫌フヘキ  
思慮アル俳士能ク考エ可<sub>レ</sub>辨 但垣ノ文字ニカ、  
ハリテ道理ヲ外ニスル去嫌ナラハ蕉門ノ論ニアラス

一 鳧<sup>カモ</sup>鐘<sup>ガシ</sup> 磬<sup>ケイ</sup>シウチナラシト訓ス昔鳧氏ノ人作り始メ  
タルニヨツテ名トストソ今ノ世 鉦<sup>シウゴ</sup>鼓 フセカ子ノ類ヲ  
鳧鐘ト云シ尤釈教

一 霞ノ谷 城別深州ノ北ニ有活法ノ書ニムサトセヌ事ト  
云ルハ八雲御抄ニ霞ノ谷山城奥別同名アリ但<sub>レ</sub>山城

十

ノ霞ノ谷ハ悼ルコト有ト云ニ古今集ニ深州ノ帝ノ御国忌ニ

文屋康秀

卅深キ霞ノ谷ニ敷カクシ照日ノクレシ今日ニヤハアラヌカヤウノ哥モ有ヲ以テ悼ルコト有ト遊ハセシナラシ

別ノ霞ノ谷

深艱父

積香山霞ノ谷ニ深ケル我物思ヒハ暗ル夜モナシ

一カケヒニ懸ノ字ニ句去正字覓シ凡テ正字アルモノ

其詞ハカリハ皆二句去活法ノ例シシカレソレニ差別習ヒアリク文字ノ下ニ委テ記ス

一カイヤ翁奥ノ紀行ニ

這出ヨカイヤカ下ノ墓ノ聲

此カイヤト云モノ蝻飼<sup>カイコ</sup>屋ニ万葉集及六百

番ノ哥合等ニ哥アリ捻シテ蝻飼<sup>カイコ</sup>スルアタリニハ

其蝻<sup>カイコ</sup>ヲ喰ントテ蝦蟇<sup>ガニ</sup>多クシタヒ集ルトソ万葉ノ

哥モソノ事ヲ讀リ依テ翁奥紀行ノ時蝻飼<sup>カイコ</sup>ヲ

カリ屋ヲミテ此吟アリ句ハ春句ニ紀行ハ初

其<sup>カイコ</sup>未タ蝻飼<sup>カイコ</sup>ノ最中ニ凡テ眼前ニ其事ヲ見テ

スル句ニハサレテ季ノ遠慮ナレ紀行ノ例ニ

朝霞<sup>カイ</sup>カイヤカ下ニ鳴蛙忍ヒツアリト告<sup>カイ</sup>ンコモカモ

又万葉ニ令一義<sup>カイ</sup>庶火屋ト云アリ是秋田ノ庶ヲ守

為ニカリ屋ヲ作り火ヲ燒<sup>カイ</sup>居ルヲカイヤト云是ヲ

六百番ノ哥合ニ題寄煙戀

十四

山田モルカイヤカ下ノ煙コソコカレモヤラヌ類ニ成ケレ  
是秋田ノカイ屋ヲヨメリ翁ノ句ハコレニハアラス  
室ノ句ハ凡テ古翁ノ吟如<sup>キ</sup>此深キ寄セアルコト多シ  
只ナミクノコトニアラスト思ヒシラル、シ

一カシ鳥 秋ト云イ雜ト云 秋ノワタリ鳥ニアラサレハ

雜ノ說宜シトソ判<sup>カシ</sup>鳥ノ字俗字シ 檀鳥<sup>カシ</sup>シ正字ナシ

哥ニハ其ニモヨマリ

夫<sup>集</sup>未<sup>集</sup>集 復<sup>集</sup>亭<sup>集</sup>ヒクウナカミ山ノ椎柴ニカシ鳥鳴ツタアサリシテ

一カシハテ 神祇ニ柏掌<sup>カシワデ</sup>有リ又禁裏ノ御膳<sup>ツギトル</sup>ヲ主官<sup>ツギトル</sup>ヲ

カシワテ司<sup>ツギトル</sup>ト云則主膳正ト書<sup>ツギトル</sup>シツタミキニ膳部ノコトシ

ト記セルハ是シ

一カヤブキ 御傘ニ是秋ニモ植物ニモ成ニシキ道理ナレ

トモ季ノ詞大切ナレハ名仲ノ介カリテモ秋ニスヘシ秋ナレハ

植物ニモ二句ハ去ヘシト云、凡テ御傘編集ノ時事甚

無數ニヨツテ如此ノ了簡多シ屋根ニ昔<sup>キ</sup>テ何シ十

年ニモナルモノ秋季植物ニハ用ヒカタシ外物ニ准<sup>メ</sup>

却テ不<sup>ル</sup>宜式シトソサア<sup>レ</sup>ハ櫻ノ盤<sup>バン</sup>躑<sup>ツクシ</sup>躑<sup>ツクシ</sup>ノ筒<sup>トウ</sup>モ

春季植物トシ 鮭<sup>サケ</sup>鯉<sup>コイ</sup>ノ類ノ 鱸<sup>ヨモギ</sup>モ季ニ用ヒ生類ニ

二句去トモ子ハ不都合シ世俳ハ免モア<sup>レ</sup>蕉門ノ徒ハ不用<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>

一カツチルト云詞ハツイ散シ又サシチル意シ猶モノ字



ノ取 紅葉ノ下ニ委記ス

新古今 下紅葉カツ散山ノ夕時雨濡ヲヤヒトリ鹿ノ鳴ラン

一 カケロフ 陽炎ニカケロフモユル只カケロフ共ニ春ニ又

蜻蛉蜻蜒カケロフト訓ス是トシボウノチラノト手  
ニモ取レ又形チヲ陽炎ニ喩エタル名ニ 春ノカケロフニ

蜻蛉蜻蜒ノ字不可用 トシボウ秋ニ名取ノカケロフ  
ノ小野 蜻蛉ト書テモ無季ニ 秋津野モ秋ニアス

大和ノ名取ニ

新續古今 雲カカル夕日ノ空ニカケロフノ小野ノ浅茅生風ノ涼ニ

一 亀井 撰列天王寺ニアリ 名水ニ

後拾遺 万ッ代ヲスメル亀井ノ水ヤサハ富ノ小川ノ流ナルラン

一 霞ノ関 武藏ニ江戸ニアリ 俗霞カ関ト云

新後拾遺 伊タツラニ名ヲノミトメテ東路ノ霞ノ関モ春ノ暮ニ

一 竈山 カニト 美濃 筑前ニ同名アリ

夫木 美濃ノ国カニトノ山ニ日クルレハ烟タエセ又歎キヲソスル

六帖 都ヨリ西ニアリテフ竈山烟タエセ又戀モスルカナ

一 カタツナニ カタニモ無キニモ三句去 御傘ノ趣ニ 赤人

和哥ノ浦ニ沙ニチ来レハ浮ヲナニ芦边ヲサシテ田鶴鳴渡

此哥トクト心得又輩 和哥ノ浦ニハ男波ハカリ打チテ

下

女波ナシ依テ片男浪トヨメリト云リ予和哥ノ浦一  
見セシ時モ案内セシ者斤男波ノ磯正ク此取シト  
教エテ奇トス甚愚俗ノ云取シ此哥ノ趣意ハ沙ガ  
ミチ来ヌルホトニ于浮カ無クナルニヨツテ芦辺ノカタジ  
サシテ田鶴ガ鳴行ツトシ浮ヲナミノ字ハ休メ字  
御傘ニハ鶴ノ行カタナキト云カケタルト註セリ何レニ  
シテモ波ノコトニアラス無キノ字ヲナミトヨメルシ

一カサ子字 俗ニヲクリ字ト云シ付テハ不苦送リ字トク打越嫌シ  
送リ字ノ勺ニツクリ字ノ勺ツ付モ一折ニ一取ツハスシ多クハセス

一カイマミ 垣間見ノ字シ依テ居取躰ノ勺ハ打越嫌シ

一カヘルメタ 堂ノ破風ニアル葦股ノ木ト云モノシ

一カイゲ 飯匙イガイシ俗ニ云杓子シ伊勢物語ニ手ツカラ  
飯匙トリテ家子ケゴノ器ニモルヲ見テト云ニ

一寒山拾得 非人倫トス問フ此両子ハ佛隱者シ摠  
シテ僧ノ名サヘ凡僧ノ分ハ人倫トス寒山拾得ハ  
俗髪トミエ人倫トセサルモノ如何ン 答フ傳燈録ト云  
書ニ寒山拾得普賢文珠ノ應身ト記ス凡人ニ  
アラス大悟ノ佛子シ非人倫トシテ不足ナキシ如此  
ノ意ニテ非人倫ト究メタルナラン

一 篋 <sup>カクミ</sup> 籠 <sup>カゴ</sup> アル形ノ籠シ 戀ノ形見ト云モ此篋ヨリ  
ツコレリト云事本據有ルコトト云ニ日本紀ニ應神  
天皇五世ノ孫男大迹王人皇七代繼躰天皇ト申  
是ニ俄ニ御位ニ即玉ヒ越前ノ国安治麻野ト云取  
ヨリ大和國玉穗ノ宮ニ移リ玉フ時其妾ニ花篋ヲ  
残シ與玉フヨリ戀シキ人ノトメオク物ヲカタミト  
名ツケヌルト花カタミヲ謡ニモ作レリ

一 カソイロ 父母ヲ云シ日本紀

一 カタガへ 凡ソ公家堂上ノ人ノ他行シ玉フニハ其日ニ  
依テ方角ノ善惡ヲ改ルコト甚嚴ニス然ニ行キ取  
方角惡シケレハ先ツ方ノ善方エ出テソレヨリ用取エ  
趣キ玉フ是ヲ御方違ト云シ日ニ有ル事ナル故ニ  
常語トナリテ御他出ヲ凡テ方々がエト云シ  
源氏物語ニアマタ取出タル詞シ

一 カリソメ アカラサメ イサメ 此三言同意ノ詞シ其  
中 アカラサメト云ハ二義アリ物ヲツミズ隠サヌ  
辭ヲアカラサメト云フ則白地ト書クシ又只暫  
書キテアカラサメト訓スルアリ是カリソメト同意シ  
長明方丈記ニ大カタ此取ニ住ソメシ時ハアカラサメト  
思ヒレカ今ニテユトセヲ經タリト云是カリソメト思ヒレガ  
云意シ イサメト云詞ハカリソメト同意シ

古物ノ名ノ哥

イサメニ時ニツ間ニソヒハハス心バセラハ人ニエツ

此哥物ノ名一首ニ四ツアリ笹松枇杷芭蕉葉

与

蓬團子

御傘ニモ雜トス蕉門春シ竹餅

竹團子ノ類皆春シ

一夜寒ノ里 尾張ノ名取

堀川百首

袖カハス人モナキ身ライカセン夜寒ノ里ニ嵐吹ク

一ヨミチ 暗路ノ通音シ冥途シ又万葉黄泉ヨミチト訓ス

一淀船 ヲタマキニ旅シ非水邊ニト記セリ勿論旅シ水邊シ

イカ、レテ斯ハ書タカエタルヤ一取ナラス非水邊ニト記セリ

六

一タナツモノ 穀稷 二字トモニタナツモノト訓ス五穀ノ

種シ春苗代ニヲロス穀種ノアミリヲ民家ノ言ニ

タナツミト云是稷ノ畧シヤキ米トス

一竹ノ宮 伊勢ノ齋宮ノ御コトシ此神宮始多氣郡

アリ故ニタケノ宮シ後竹ノ字ニ易フ又タケノ都トモ云リ

齋王ノイニセル取ナハ都トモ云シ委奈野ノ宮ノ別ノ下記

一タノムノカリ 田面ノ鴈又憑ノ将ニ説シ

伊勢物語

三吉野ノタノムノカリモヒタフルニ君ガ方ニソヨルト鳴クナリ

一竹植

其し

翁其ノ發句ニ

降ラストモ外ウユル日ハ簑ト笠

一手向州

非植物ニトス是神佛ニ物ヲ手向ラズ又

一葉ニモ云カタシ董ノ異名手向州一夜草トモ云フ

花サカハコレヲ宮居ニ手向草一夜ノウチニ二葉ニソカ

一田蓑嶋

栞列ノ名取し

貫之

古今 雨ニヨリタミノ嶋ヲ今日行ケト名ニ隠レヌモノソ有ク

一タレコメテトスハ

綿帳ヲサゲル帳ナドヲ立廻ル籠リ居し

古今 タレコメテ春ノ行エモ知又間ニ待サシ櫻モウツロヒニケリ

一大黒

神祇ナレトモ面八句ニモスルト云リ是御傘ニ

惠美須ハ福神ナレハ面八句ニモ苦シカルニシト記セルヨリ

活法ノ書ニ皆如是御傘ハ俳諧初式ナレハ事甚

些何ナリトモカ、リアヒニ免シテ俳諧ノコト多キヲ

ヨシトセリ既ニ古今集ノ三鳥ニテ春秋ノ部ニ出シテ

不苦セヨト云ニテ可知凡テ面八句ニ神祇秘教戀

等ヲセヌ趣意ヲトクト相傳セサルユニ異説ニ迷

ヘル他門ハ兔モアレ蕉門ノ徒ハ大黒惠美須

面ニ安シテスヘカラス

曾

一僧ノ字ハ非人倫

僧ノ名ヲ云時ハ古今トモニ凡僧ノ

名ハ皆人倫し一宗ノ開山或ハ国師号大師号有

僧ノ名ハ非人倫ニ

一ソボツ 漆<sup>ソボツ</sup>ノ字シ 微濡<sup>ソボス</sup>シ 千律師 板敷山ニテ

幾度カ山路ノ露ニソボチテシ 袖ノユカリノ叶モナツカシ

一袖ノ霜 フタミキ九月ノ采ニ出シタリ此秋季心得カクシ

按ニ袖ノ露ノ書誤カ但シ上ニ衣打ト出シタレハ衣打袖

霜ト云イワケテ秋季ト云フコトカ 露<sup>ソボ</sup>霜<sup>ジモ</sup>ハ秋シ

津

一<sup>カ</sup>花 赤キ帷子<sup>カタヒラ</sup>シツ、ジカ花ノ畧語シトソ 然レ

トモ 帷子ノ名ニ成タレハ 植物ニハカニヒナシ 紅色ノ

物ニハ三句去ヘシ

一月ニサミダレトハ付テ不<sup>サツキ</sup>苦 五月雨ト云時ハ月次ニ准

ヘシレカシ雨一通リノ句ナラハ二句去ニテモ可シ

一<sup>ツミトカ</sup>罪科 トツ、キテハ叙教ノ詞シ一字ツ、離<sup>レ</sup>テハ雜

禰

一 猫ニ鼠 鷹ニ雉ヲ付ル等カ 但シ嫌フ人モ有ト云ヘリ

摠シテ昔ノ俳諧ノ付方ハ皆此類シ 士<sup>サライ</sup>ニカ 坊主ニ袈

袈ト付タルシ 今モ女ニ口紅<sup>ベニ</sup>粉<sup>ニ</sup>シハゴト付ル類ヒコレヲ

制スレハ俳諧セバキニ似タリ 師ノ氣ノ毒コ、ニ有リト云、

奈

一 涙ノ露ハ 降り物 涙ノ雨ハ 降物ニアラストス 是両様

ニタトヘタルモノナレトモ 季ヲ持ツト不<sup>レ</sup>持トノ違シ

新古今

露ハ袖ニ物思フ頃ハサソナツク必秋ノ習ナラ子ト

一 涙ノ時雨

降物シ 雨モ時雨モタカフコトハナキ物ナレトモ是又季ト無季ノサカイシ

一 涙川

涙ヲ川ニタトエタル句ハ非水辺ニ名取ハ勢別ニアリ水辺シ

後撰 君カ行方ニ有テフ泪川先ツハ袖ニモ洗ルヘラナル

一 中戀

媒アリテ中ニテ取ハカラフ戀ト云リ

一 ナコソノ關

後撰 立寄ラハ影フムハカリ近ケト誰カ名コソノ關ヲスエケン

一 ナカ神

順ノ和名抄ニ曰百鬼經ニ天一神和名那加ニ義天ガノ化現シ亦大白神ト云新撰陰陽書ニ和名比土夜ガ久里ト云ニ大白神トハ大白星ノ事ヲ云フカ大白ハ俗ニ云フ宵ノ明星ニシテ一夜ニ周天スト云リ依テ一夜メグリト云ナラシ又藻塩州ニ曰ク天一神方伯是フタカリノ神ニ五奈ノ天神カト云ニ源氏物語ノ註ニ天一神中神長神兩様ニ道祖神カト云リ中神長神兩様ト云註ハ和名抄ニ那加ニ義ト云ルハ中ノ字カ長ノ字カ知レカタキト云義シ右三說四說皆相違シテ不契按ニ是道家ニ立名

神ニ本朝神祇門ニナキ神シ畢竟天一神ト云ハ  
方伯シ方違ノ神シ曆ニ天一天上ト云日ハ百事忌  
ナシト云ミ然レハ方角ノ惡キ方ヲフタキテ守ル神ト  
ニヨツテ道祖神ト云フモ一理シ那加ニ羨トハ中ノ字ナル  
ヘシ物毎ヨカラントスル下ニ必惡キコト有善惡ニカタ  
ヨラ子ハ方角ニモ惡キ方ハナキシ中道ノ神ナルヘシトソ

一ナクサメ州 戀シキ人ノ文及取見等ツ云哥ニ多詠リ

一ナゲノ情 サニテ深ク思ハ子トモ打モ置レス先ツナゲヤリニ  
シテ置ク意シ茂ノ字意シトソ又古今集ニイサ今日ハ  
春ノ山辺ニニシリナン暮ナハナケノ花ノカケカハト讀ルハ

ナゲノ情ノ意トハ違ヒテ無ノ字意シト註ニニエタリ

一ナテシコ 石竹 二名一物シ 常葉ト云フ別ノ云時

野ニ自然トアルシ瞿麥ト称ス是上古ヨリ本邦ニ  
在テ大和ナテシコト云モノ是シ又河原瞿麥トモ云シ  
人家ニ植翫フヲ石竹ト云是唐ナテシコシ元ト唐ヨリ  
將來ノ今實バエニ數種珎花ヲ出ス京俗 洛陽花ト  
賞セリ今ハ河原撫子ニモ色ニアリ 古今集ニ

是ナテシコノ哥シトカヤナテシコトハ花ノ色 形チ甚ダ愛  
スヘキヲ以テ撫子ヲ愛スル意ノ名シトソ又石竹ト  
云名ハ或ル物語ニ曰昔東国ニ鳥田ノ時主ト云勇士



アリ家ノ後ナル山ニツノ石アリ 彼石石靈アツテ人  
惱ス依テ時主件ノ石ヲ射ル則矢立テ其矢抜ケトモ  
又ケス日ヲ經テ其矢ニ花咲キ畢ンヌ其花則ナテ  
シコシ依テ石竹ノ名有リト云ニ此物語ノ意ヲ 俊頼卿  
カラウ國ニ有リケルコトハイ丹知ラス東ノ奥ニ生ラル石竹

良

一 ラン番ノ句ニナンケント中ニアルハ付句モカミヒナシ番メハ  
打越ヲ嫌フナントナントケントケントノ同シ假名ハ  
三句去ヘシ

年

一 室ノ八嶋 下野國壬生ノ驛ト飯坂トノ間松社村ニ在  
木ノ花咲ヤ姫ノ神宮ニ無戸室ニ入テ燒死玉ニナント

云誓言ノ御中ニ火ニ出見ノ尊生レサセ玉フ依テム口ノハ  
嶋ト云リトソ此取ニ世ニ煙ヲ詠習ハシ侍ル 俊成卿  
イカニセン室ノ八嶋ニ宿モカナ戀ノ烟ヲ空ニカヘン

一 室ノ戸 寺院ノ号ニ山林ニ引入ル寺院庵坊ヲ室  
戸ト云シ依テ天子ノ法ニ入玉ヒテノ御隱居ヲ御室ト  
云フ宇治ノ御室寺京師ノ御室仁和寺コレシ  
寺ニ折シ嫌フト云 説有リ付テ不苦ト云説有  
蕉門面シ去ル

一 山口ノ木 葉ハ枚ニ似テ細ク嫩シ木ニ刺有リ 杜松又  
松揚ム口ト訓ス 順ノ和名抄ニハ 榎ト記セリ

一 無名ノ煙

何ノ烟トモナク只烟トハカリ出タルハ無常  
煙ナトニナル句有ヘシ然レハ夢想祈禱賀ノ會ニハ  
甚タ忌コトナレハ其心ヲ得ヘシトシ又出火ナトノ躰ニ  
ナラヌヤウニ心得ヘキシ

一 ムサビ

活法ノ書ニ獸ト記非レ獸ニ蝙蝠ノ類ニテ  
鷲ノ大<sup>サ</sup>ホト成モノ翅尾ニ四足付テ爪アリ山野ノ木  
立テ夜飛行ス鷲<sup>ムサビ</sup>眼ソバシキト訓ス關東ノ方  
言モ、グハ俗ニ野衾ト云モノ此老タルモノト云不  
思ニ人ノ面ヲ覆フコトアリ故ニ俗怪物ト思ヘリ怪物ニ  
アラストソ木深キ山ニ多クアリ聲アルモノト云ニ  
春日山夜深キ松ノ梢ヨリアマタ落来ルムサビノ声  
為無名

宇治拾遺ニ曰後鳥羽院ノ御時水無瀬殿ニ夜ニ

光リ物アリ其大<sup>サ</sup>傘<sup>カサ</sup>ホトアリテ山ヨリ此御堂ヲサシ  
テ飛来ル侍共面ニコレヲ見頭ノ高名セント心  
懸ク或夜一人ノ侍堂ノ中嶋ニ待<sup>ツ</sup>之<sup>ヲ</sup>例ノ山ヨリ  
光リテコナタサニ来ルヲ芝ノ上ニ寐ナカラヨウヒイテ  
射ル手コタヘレテ池エ落タリ人ヲ起<sup>レ</sup>サハキテ松燈  
コレヲ見<sup>ル</sup>ニ大<sup>キ</sup>ナル鷲<sup>ムサビ</sup>鼠ノ年フリテ毛ナトモ元レブ  
トケタルニテソ有ケルト云ミ按<sup>ル</sup>ニ此宇治拾遺ト云  
元テ奇怪ヲ好ミ記<sup>レ</sup>タル書ナレハ菅笠ホドアラハ  
傘ホド、書ヘキコト必定ナラニカレ

一 宇

ウチ渡ス ウチ霞ト云言ハ物ヲ打ツトハ違ヒテ只輕キ

フ

ト

詞之面八句ニニツ有リテモ不苦ト云リ、  
同字ヲ嫌フ趣意ハ其文字ノ輕重ニハヨラス書  
面ノ宜シカラシ為シカロクテモ同字同言無用シ平  
場ニテハ宗通ノ了簡次身輕重ヲ量テ可<sup>ハカツ</sup>許<sup>キ</sup>レ<sup>ス</sup>之<sup>ラ</sup>  
コト勿論シ、蕉門如此ノ吟味ツヨシ

一 鶉衣 佐人ノ短衣ヲ云シ、然トモ鶉ヨリ出タル詞  
ニノ秋季トスルナレハ生類二句去

一 鶉ノ床 ウツラハ空ヲカケル鳥ニアラス、昼モ  
草中ヲ床トシ居ル故ニ諸鳥ノ<sup>チカラ</sup>埒トハ違<sup>ヒ</sup>  
夜分ニ非ストツ

一 ウブメ 玄中記ニ姑獲鳥<sup>ウブメトテウ</sup>ウブメト訓ス、産婦死  
後化<sup>ル</sup>此鳥トナル故ニ<sup>多ク</sup>胎ノ間ニ<sup>コノ</sup>乳アリ喜<sup>ン</sup>デ  
人ノ子ヲ取テ為<sup>シ</sup>己カ子ト云ミ、活法ノ書ニ生類ト  
云ハ是ヲ云ナルヘシ

為  
一 井セキ 水除ケシ依テ此假名ニ昔ヨリ奥ノ井ノ字  
ヲ用ヒ来<sup>リ</sup>是古人ノ思<sup>ヒ</sup>違<sup>ヒ</sup>トソイセキト云ハ  
蛇<sup>ジヤカコ</sup>竈ト云モノニ石ヲ多ク取入コレヲ大河ノ岸ニ  
積<sup>シ</sup>テ水ヲ除ルシ依テ石堰ノ略シ然レハイノ假  
名勿論シト云ミ、水边ナレハ井ニハ三句去

一 猪<sup>井</sup>名野 楳列ノ名取

ワケ下

後拾遺

有馬山井十野筈原風吹ハイテツヨ人ヲ忘レヤハスル

大貳三位

乃

一野守ノ鏡

荒野ニ有ル水ヲ云トソ哥林良材ニ曰昔

雄畧天皇野ニ狩レ玉フ時御鷹放レテイツケ不知

夫又野守ヲ召テ問イ玉フニ有取ヲ奉教イカニシテ

サタカニ知レルヤト詔アルニ此野水ニ御鷹ノ影

ウツリ侍ヘハシカク奏シ上ルニト申ケルヨリ野ニ

アル水ヲ野守ノ鏡トハ云傳侍ルトナシ

若鷹ノ野守ノカミ見テレカナ思ヒシモ父余取目カラシ

一野サレノ鷹

雜

凡鷹ハ四季ニアツテ皆飼育

狩スル其業ニ付テ季アリ野ニ生立モノハ季ナレ

野サレト云ハ野ニソタケテ年ヲ經ルヲ云シ

一ノサキノ鷹

春ニ是ハ野ニソタツ鷹ニアラス鷹

ハ皆夏ノ内毛ヲ易ルニヨツテ窠宿ニコメ置テ

狩セズ然ルニ稀ニ冬季毛ヲ易ルモノ有テ冬ヨリ

初春ノ内窠宿シテ仲春ニ早ヤ出シテ狩スルヲノ

サキノ鷹ト云シ按ルニ野ノ先駈ト云意ナラニカ

夫木我戀ハ野サキノ鷹ノ初狩ニシテモ瘦スルモ心シケリ

一野モセ

道モセ庭モセ皆狹略シ野モセ年道モ狹ト云義シ

於

一老ニ賀ノ字ニ句嫌フト云リ是活法撰者ノ思違シ

下

七

賀ハ一切ノコトニアリ老齡ノ祝ニハカリ有<sup>ル</sup>アラス  
付句モ打越モカニヒナシ

一 大神祭 <sup>オラワニツリ</sup> 三輪大明神ノ祭ニ此訓 <sup>ヨシ</sup> 日本紀延喜  
式等ノ訓ニ又大神祭トモ

一 起<sup>ツキル</sup>ノ字 夜分ト云説アリ句ニヨ<sup>ル</sup>既ニ朝起ト云ハ  
朝時分ニ非<sup>ニ</sup>夜分ニ

一 夕<sup>タ</sup>サムラ 州ノ字ニモ村ノ字ニモ二句去シ捻レテ正字  
有<sup>ル</sup>モノ二句去ト云活法ノ例ニ業<sup>クサハラ</sup>ノ正字アレハ  
村時雨杵村等ノ村ノ字子向州シモモ草等ノ

州ノ字ニ二句去トス業<sup>クサハラ</sup>ト云ハ草ハカリノコトニアラス  
荊棘篠小笹ノ類ニテ茂ル取ノ捻名ニ依テ州  
ニモ村ニモ二句去シサレハ正字アルモ何ニテモ皆如此  
ト大ヅカニニ覺<sup>ア</sup>エテハ又誤アリ 喻ハ朝<sup>アサヒ</sup>ノ日ニアサヒ  
ハ旭<sup>アサヒ</sup>ト云正字アレトモヤハリ朝<sup>アサヒ</sup>ノ日ニ三日月ニ腦<sup>ニカキ</sup>ノ  
字有<sup>ル</sup>トモヤハリ三日ノ月ニ正字アリテモ其意違<sup>タカフ</sup>  
コトナキモノハ定ノ通り去嫌フ<sup>ル</sup>如此 微細<sup>コシカ</sup>ナル趣  
意ヲ不辨<sup>ル</sup>ノ書物ノニ去嫌ノ宗匠ハ才<sup>ツ</sup>ニハ劣<sup>ク</sup>レリ云

一 夕子ルト云詞 ソムキスル<sup>ル</sup>古今集ノ序ニ女郎花ノ  
一時ヲ夕子ルト書ケルモ彼男山ニ女郎花ノ古事ア  
ルヲ含<sup>ミ</sup>テソムキスル意ニ用タルシ

一 位山 クライセ 飛騨国ノ名取

大中臣能宣

拾遺 位ヤニ峯マテツケル杖ナレト今万代ノ坂ノタメナリ

一 朽木 名取ノ時、クツキシ江列ニ立 高嶋ヤクツ木ノ  
杣トヨメリ 高嶋郡シ

一 熊野ニ那智本宮新宮付テ不苦ト云説有、蕉門  
面ツ嫌、此三取ヲ熊野三山ト云イ又三熊野トモ云  
同意ノコト殊ニシモキ去嫌ヒシ

也

一 柳ノ水 西ノ洞院三条下ル取ニ立昔織田常信信雄  
秘藏シテ茶ニ用ラレタル名水シ井ノ端ニ柳ヲ植テ

其名ヲ呼リ則此取常信屋鋪跡シ又下野ノ国  
芦野ト云取ニアル彼清水流ル、柳サ蔭トヨメルヲ  
モ西上入ノ柳ノ水ト云イ習ハセリ是ハ句ニ依テ夏季

一 山賤 セガツ 山類ニアラストスルハ 賤山 セツ ガツトテ只  
イヤレキモノ、号シ

未

一 松嶋 御傘ニ曰松嶋松カ浦等ハ其取ニ松アリ  
トモミエス只昔ヨリノ名ハカリシ故ニ非ニ植物ニ松  
ニハ三句去トスト云ニ是負徳翁ノ松嶋雄嶋ノ塚  
到テ見ラレス只書籍ノウエニテノ捌シ芭蕉公翁ノ  
曰クソレ俳諧ハ學文書籍ノウエノコトニアラス

下

七

世妻ニワタリテ切有ルモノ、慥ニ見届聞定ナルヲ  
以テ證トスヘシトソ 松嶋ノ諸嶋自然ニ皆松アリ尤  
山類水辺植物ニ松五句去トスヘシト云ニ 予行テ  
誠ニ之ヲ嶋ノ數カソヘ尽シカタク 俗八百八嶋ト云其  
中ニ松ナキ嶋 稀ニシテ裸嶋ナシト云餘ハ悉松有  
テ無<sub>ニ</sub>他木一サレハ古記ニカハラス植物ニ三句松ニハ  
五句去ヘシ

一 籬カ嶋 奥列塩竈ノ入江ノ前ニ在

古今 我セコソ都ニヤリテ塩カマノ籬カ嶋ノマツソ戀シキ

一 枕香ノユガノ渡リ 下総シヨカルト云枕言ニ枕香ト云

万葉 マクラガノユガノ渡ノカラ楫ノ音高シモナ子ナクユヘニ

一 松カ崎 名取 山城ト江列ト両取ニアリ 山城ハ非<sub>ニ</sub>水

辺ニ 江列ノ松カ崎ハ水辺ニ

夫木 波タテル松カ崎ナル芦田鶴ハ千代ヲ重ヌルタスニケリ

一 松風ノ里 尾列ノ名取

名取和舟集 松風ノ里ニムレイルミナ鶴ハ千代ヲ重ヌル心地ヨソスレ

一 前ワタリ 思フ人住ル<sub>ル</sub>边ヲ事ニヨソヘテ渡リアリクニ

一 ミウノボリ 后宮及女宮ナドノ泰内シ玉フツミウノボリ

玉ヲト源氏物語ニ取ミミエタリ 叅上<sup>ミ</sup>ノ万葉ニ出

一 一イス 人倫 賣僧ノ唐音シトソ 噓<sup>ウ</sup>ツ賣アリク  
僧ツ一イスト云シ

計

一 ケラシト云 詞 ハルケシ シツケシニ面ヲ嫌フト記セリ  
コレ<sup>ツタミキ</sup>亭環ナントノ作者 應安式ヲ見誤ルトミエタリ  
ケラシト云ハケルラシノ略ニメウタガヒノ手不葉シ  
ラシラシナトニハ二句去ヘシハルケシ シツケシナトハ大  
別ノコトシ付句モ打越モカマイナシ

一 ゲシト云 假名 ノドケン スヅケン ナドニ字假名ナレトモ

目ニタツ假名ニ依テノトケシト 涼ケシト三句去 同シ  
假名ハ面ヲ嫌フヘシトソ

不

一 古<sup>レ</sup>郷 一座ニツノ物シ 其意皆カハレリ 常ノ取ニテモ  
又ハ都ナトノ跡ニテモ 只昔ノ里ヲ云ツ 居古里ト云シ  
奈良及志賀吉野 難波等ヲ云ツ 名取ノ古里ナリ  
又旅ノ古里ト云ハ 京田舎ニヨラス 旅工出テ 我國ヲ思フ  
古里シ 先ツハ 皆懐月シ 懐月ニナラヌ 句ナラハ  
面ニモ 不<sup>レ</sup>苦

一 船<sup>夫木</sup>岡山 山城ノ名取 今無常取シ  
秋クレト 船岡山ノ篠<sup>シ</sup>ス<sup>キ</sup> 誰ニシノヒテ 穂ニ出サラシ



一風呂 居取ト云レト是ハ居取ノ用シ 脊戸カトナカシ  
等ニニ句去村里隣ナントニハ打越モカニヒナシ

一冬ザレ 冬立ツ 冬天ノ寒キ氣ヲ云シ 春サレ 秋サレモ  
同シ 夕ザレト云モ 只夕ベノ氣色ノ寂シキヲ云シ 万葉ニ  
去者ト書テザレハト讀セタリ 然レトモ 強シイテ去ノ山ヲ  
意モナキトソ 冬立ツト云モ 立冬ノ節ヲ云ニハアヲ  
ス 只冬ノ氣色立ツシ 冬立ツヤト云 五文字ハ 冬ノ氣色  
ナルヤト云意シ

一木カラシ枯ノ森 駿列ノ名取

後撰 コカラシノ森林ノ下州風ハヤミヌノナケキハ生ヒ漆ニケリ

一懸ノ山 名取ツ云時ハ出羽シ又思ヒノ積リテ置取ナキヲ云シ  
新初撰 コヒノ山シケキ小菴ノ露ワケテ入ソムルヨリ濡ル、袖カナ

一心ノ松トハ 貞操ニシテ色ノカハラヌ心ヲ松ニ喩タル詞シ

一夜手ノ森 山城ノ名取  
續拾遺 フリハヘテ音ニ鳴クラス 蟬ノ羽ノ夕日モ薄キ 衣子ノ森  
頭輔

一夜川 奥別ノ名取  
拾遺 タモトヨリ落ル 泪ハ陸奥ノ衣川トモ云フヘカリケル

一 苔ノ能トホク 居取し植物ニ打越嫌ハ可し句ニヨリ迷懐し

一 此殿 居取し 謠物ナラハ非居取ニ

一 コトシニ 今ノ字不嫌 今年ハ是年トモ書テ一ケ年ノコトナレハ強テ今ノ心ナシ

一 碁ニ 將碁七句去 双六ハ嫌フ 沙汰ナシト云ニ 師ノ曰碁將碁トモニ御傘ニモ不出 七句去 後人ノ究メタルモノシ然レハ雙六モ盤面ノ勝負藝ニノ等類ノモノシサレトモ碁將碁ニハ藝頭有テ其家ヲ立 双六ハ家ナシサレノ替リアツテ輕シ碁將碁ニ三句去ヘシトソ

一 贅ゴゼ女 ゴゼノ称ハ元ト御前シ九ヲ本朝ノ俗ゴゼニ御前ノ字ヲ用テサノニ敬テ称スルニアラスシ御前 尼御前ノ類シサレハ是贅御前シヲタミキ 五舌ノ字ヲ出ス 玆ニ出取可尋

一 木ノ葉ノ浦 近江シ 木ノ葉ノ澳トモヨメリ 葎環ニ木ノ葉ノ奥ト記セルハ澳ノ字ノ書違ナルヘシ木ノ葉ノ奥ト云名取ハ雲其外ノ名取志ニ未見之 為尹卿山風ハヲヨハス方ノサ、浪ニ木ノ葉ノ浦ノ名ヲ散スラン

一 木ノ葉ノ里 越中ノ名取 六帖 千リニカフ木ノ葉ノ里ヲ立別サハ住吉ト秋モ行ラン

得

一 衛士ノ焼火 禁庭ノ四衛府ハ禁門ヲ守ル奉行シ上

古ハ是ヲ衛士府ト云イ今ハ衛門府ト云 左衛門ノ督曰佐 右衛門ノ督曰佐

ナントノ届ス役取ナレハ衛門府ト云シ禁門ノ衛護名

ニ依テ節會等ノ終夜 ヨモスカラ 篝ヲタカセテ警固セラル

コレヲ衛士ノ焼火ト云シ其火焼キハトツト下役者シ

一 エビニ 海ノ字左ノ字一字ツ、離レテハ不嫌ハ

正字 蝦エビシ

一 エビ染 裝束ノ色シ蒲萄衣ト書テエビソメキヌト

訓セリ 熟レタル蒲萄ノ色ノ染衣シ

天

一 手洗水 非水边ニ 手水水 打水 茶水 洗足等

凡テクミカカシスル水ハ非水边ニ 橋 舟 鳥 魚ノ

水边類ニ且テ去嫌ナシ水ノ字ニハ三句去

一 朝露州

活法 五月 夏菊ノ下ニ出シタリ 此名アル

モノ本草其外 花史州史ニ三エス 夏菊 朝菊 朝

露草ト出シタレハ夏菊ノ属ナルヘシ 或説是テウロギ

成ヘト云リテウロギハ州石瑩シ 其根ヲ賞シテ春ノ

モノシ 此説大キニ不合シ

一 調布

古武藏国ニ織リシ名産ノ布シ

拾遺 玉川ニ晒ステツネリサラクニ昔ノ久ノ戀シキヤナシ

一 癩痼 テシカン クツチカケト訓ス音訓トカハリテモ只一ツ

一 安 アカ 閑伽 アカ 水辺 釈教 夜分シ 曉ニ佛エ手向ル水ナハシ  
是モ桶ナトエ汲タル水ニテ水辺ニハナルミシキモノナ  
トモ閑伽ト云ハ水ノ梵語ニテ則水ナレハ遣レガタシ

一 明ノ字 二義アリ 明スミタル句ハ朝時分ヤカテ  
明ル意ノ句ハ夜分シ 曙ノ字ハホノカニ明カニ  
意ニテ猶夜分シ 明グレト云ハ夜ノ明前ニ  
一旦闇クナルヲ云シ 是ニ夕夜分シ 惣テ此三  
品ニ朝時分夕時分ノ去嫌ヒコミカナル事ニテ活  
法混雜ス俳子自得ノ去嫌フヘシ

一 アナカマ 源氏物語ニカシミレキ事ヲアナカマト取  
ニ出タリ アナカマボスシノ下略シ

一 霰地ノ錦 アラレ 霰ノ摸ヲ織タルシ又霰ノフリタル  
地ヲタトヘテ錦ト云フトモ

一 細代 冬ニ細代打ハ秋ニ屏風 駕ノアジロハ 無季  
蘆篠ノ字シ

一 東遊 神前ニテ奏スルウタヒ物シ 神樂ニ非ス神祇ニ

一 青柳ウタフ 催馬樂ノ詠物シ凡詠物ノ名季ヲ持ツ非植物

一 秋ノ宮 中宮ノ御事シ源氏ニモ秋好中宮アリ

一 淡路嶋山 非水辺山類トハ應安式ノ報ニメ古久夫シテ  
究メタルモノシ一國ノ名ナレハ國中ニハ野モ里モアリ  
嶋山トカタツカズ依テ山類水辺カニヒナシト云ニ

一 海士小船初瀬トハ 和哥ノヨミツケシ水辺山類シ  
初瀬ハ山下則河ニテ常ニ小船行カフシ故ニ  
カリツケタルシ又船ノ泊リハワルト云意ニテ  
泊瀬ノ字ヲモ用ユ

一 海士ノタグ繩 大綱ヲ引時撈繩シ下略シ

一 天ノ河 名取ヲ云時ハ河内ニアリ又和列吉野ニモ  
有ルヲ俗天ノ河ト云

古今 カリクラレセタツメニ宿カラシ天ノ河原ニ我ハ来ニケリ 業早  
夫木 吉野山花ヤ散ラシ天河雲ノ鼓ヲ洗フ白波 俊成

一 嵐山 山城ノ名取 風ノ烈キ山シ

拾遺 六月ヤ峯ニ雲ヲクアラシ山 芭蕉翁  
問フメモ今ハアラシノ山風ニ人マツ虫ノ声ソ悲シキ

一 有明山 信別

續古今 カタシキノ夜子ニエテ時雨ツク有明山ニカル白雲

一 <sup>アヲニヨシ</sup>青丹吉 奈良ト云 枕言ニ此詞ノ謂説多キ中ニ上

古奈良坂ヨリ丹青ノ繪ノ具ヲ多ク出セシヨリカク云リトソ

一 <sup>ウタ</sup>阿ノアクビト云ハ 民家ノ言ニ粉ヲ摺ル 磨ノシトリテ

フリガレ時 斤ニテアゲテフリ安キヤウニスルヲ 欠

サセルト云ニ茶磨ナトニモ此詞ヲ用ユ

一 アリト云詞 鞠ノカケ声ニ <sup>ツタミキ</sup> 苧環ニ有ノ字三句去

ト云リ是大キニ違ニ鞠ノアリト云詞ハ 有ト云コトニハ

アラス是甚秘スルコトナレトモ <sup>ヒルサ</sup> 記サレハ 誤不知故

<sup>キス</sup> 記之ヲ 鞠ニアリト云声ハ 蹴鞠三神ノ内ノ一神

名ニ則 計案林祖神 此神号ヲ唱ニ 飛鳥井

家ノ真茅ニシテ 鞠道相傳セサレハ 其微細他ノ者ノ知

コトニアラス 飛鳥井ニ樂軒 蹴鞠ノ御哥ニ

アリヤトモアリヤツトモヤクシトモ習ナクテハ如何云ヘキ

左

一 櫻人 サクラ花ニ執レテ家路ヲ忘タル人ニ又櫻ノ澤山

咲タル 取ニ住居シシメタル人ヲモヨメリ又催馬樂ノ詠物

櫻人ト云有リ植物ニ非ス人倫ニモ非ス春季ハ持シ

一 櫻ノ宮 <sup>續古今</sup> 伊勢ノ末社又北野ニモ有 櫻葉ノ神ト云シ

神風ニ心安クソニカセツル 櫻ノ宮ノ花ノサカリヲ 西行

一 櫻ノ戸 山中サクラノ中ニ住スル人ノ門ト云ニ 櫻ノ中

ナラテモ山住ノ木深キ栖ヲ春ニカケテハ櫻戸トモヨミナセリ  
源氏引哥 足ヒキノ山櫻戸ヲミレニ開テニ夕ニ又花ノ色ヲミル哉

一 櫻川 常陸ノ名取

常ヨリモ春邊ニナレハ櫻川浪ノ花ヨリ間ナクヨスラメ

貫之

一 櫻木ノ宮 和列吉野

一 櫻井

和列塔ノ峯ノ麓 櫻井ノ里 驛宿ニ

堀川百首

見ワタセハ春ノ氣色ニ成ニケリ霞夕ナリ櫻井ノ里

一 櫻麻

甚シ 麻數種アル中葉ノ形ヲ櫻ニ以タルヲ

云トシ勢別生ノ浦サクラ麻ノ名取ニ又一説ニ櫻咲  
頃麻ヲ蒔ユエ凡テ麻ノ総名ニトモ云リ

一 サビト云詞

神サビ 秋サビハ宿ノ字寂ノ字ニカノ

サビハ 錯 水ノサビ 鉦ノサビハ 澁ノ字ニ

一 サ、メ 山野ニ生スル草ノ類ニサ、ミノトモ云則 蓑

ツツリ 蓮ニ 編ハハサニ 毒ニ

山賤ノムスヒテカツクハニ毒コソ衣ノ開ト雨モ通サ子

一 里ノ海士

阿波ノ国ノ名取

實方朝臣

後拾遺

浦風ニナヒキニケリナ里ノ海士ノ燒藻ノ煙心ヨハサニ

一 竹カ、ラ 胡樂ノ器シトソ僧家ニモ持テルモノカ自然居士ト云説教者サ、ラ摺シコト謡ニ作レリ釈教トスルハ其故ナラン

一 早苗 苗代 非水辺ニ苗ハ水中ニノニ植ルニモアラス  
田穂ト云テ畑ニモ生立モノシ苗代ハ常水ニアラス  
入レカハカシスルモノユエニ水辺ニセスト云、

一 佐保姫ノ衣 衣ニ意ナシ姫ト云ニテ衣ト漆タルモノシ

一 雙林寺 洛東丸山ノ隣ニ在国阿上人中興シ平判官康頼入道ノ塔西行頓阿ノ塔アリ近來芭蕉翁ノ塔支考建之

一 サ、浪ヤ大津ノ宮 是天智帝ノ都シユルニサ、浪ハ近江ノ湖ニ限リテヨムシトソサ、ラ波トハ何国ニモヨメリト云、或哥合ニ  
難波カメサ、ナニ寄ル浦風ニ照ル水無月モ涼シカリ  
頭輔卿判ニ曰近江ノ湖ナラテ連ヨムコト九テ例ナレト云、

一 サ、枕 旅シ小笠篠笹シ枕トスル旅シ然ルヲ苧環ニ  
一ト取ニハ旅ト記シ又一取ニハ非レ旅ニト記ス非シ

一 霜臺 彈正ノ唐名ニ御史臺トモ云職原抄ニ曰



彈正ツギハルキウタマシ臺ニ掌ニ紉ニ彈ノ事ヲ 近代其職 移カ檢非違  
使チヤウノ廳ニト云ニ

一 酒ノ去嫌 書ニ混雜ス 蕉門ノ定 酒一ツシユト  
一ツ但レ新酒古酒トハ 酒出タル少エニテハス一カラス 恐  
冬酒保命酒ノ類ノシエノ字ハ可レ為 下戸上戸 醉  
醒ルノウワサニ一ツ樽 盃吸筒等ノ酒器ニ一ツ以上  
四ツシ九ツ四ノモノハ折ニ一宛スル法ナレトモ是ハ躰  
ト用トナレハ五句去テスヘシ

一 者ノ字 者カウ核ガイトツ、キテ魚ノコトニアラサレトモ  
世俗魚肉ヲ以テ者ト唱ヘ又生魚ヲモ者ト云レハ  
者ト魚トハ句ニヨツテ二句嫌フヘシ 寺ノ者ナシトハ  
酢茗荷座禅豆ノ類ナルニ 鯛 鱸 鯛 等ノ各  
目嫌フコト有ヘカラス 能ク其ツ可見定ム

一 サゲシムト云詞 シトシムニ折ヲ嫌フトス 是太キナルヲ簡  
達シサゲシムト云ハ人ヲヲ陷ヲニトニハアラス 本語 乖  
準スヨリ出タル詞シ 工人ノ以ニ繩ニ墨ヲ物ノユカニツ  
見ルニ據ヨ語ニ善惡ヲ察シ見ルシトシムトハ別ノ  
コトシ只シムト云假名ハカリノ去嫌ナレハ二句去シ

一 三昧サンマイ 畿内江東ノ俗 茶毗ダビ取レヲサンニイト云イ習  
ヤリ其故アルコトカ 依テ是シ無常トス 三昧ハ釈

教ノ詞ニ念佛三昧法華三昧皆釈教ノ句ニ  
依テ可去嫌フ

幾

一 昨日ノ鐘 入相ニ折ヲ嫌フキノフノ鐘ケフノ鐘共ニ  
晚鐘ノコトシト應安式ニモミエタリ

一 キヌク 曉起キワカルニ已ガトリノ衣裳ヲ  
取著ル意ヨリ戀ノ別ヲ衣ノトハ名付タルニ  
ソレヲ摸ニシテ花ノキヌク旅ノ衣ノトモ別ノ  
コトヲ皆云シモトハ衣類ノウエヨリ出タレトモ  
今起キ別ノ事ニ治定シタル詞ナレハ衣類カミヒ  
ナシ但衣ノ字ニハ二句去

一 狛川 山城ノ名取シ是ハ狛ノ字ニテアラサルヨシ

御傘ニモ記サレタレトモ狛ノ字シ古哥ニモ狛ノ

字意ニヨメリ 為家卿

トニカクニ人ノ心ノ狛川カケ頭レン時ヲコソニテ

一 北祭 加茂臨時ノ祭ヲ云十一月ニ 南祭ハ八  
幡ノ臨時ノ祭ヲ云ニ三月ニ

一 菊ノ淵 出取イクラモアリ先哥ノ詞ニ

古今 我宿ノ菊ノ白露ケフ毎ニ幾世ツモリテ淵トナラシ

一 菊ノカサレ 亭環カ文字ノ取ニ元日ヨリ五日迄ト記ス

是年中行事公事根源ニモ不載普ク書ニツ  
僉議レ人ニ尋スルニ不知恐ク書違ナラント思ヒ  
タルニ藻塩草ニ菊ノカサシ元日ヨリ五日ニテ此  
菊ハ糸ニテ作ルシ是禁中ノ儀シト云ニ然レハ  
ナキ事ニアラス古代ヨリ有ルコト、三エタリ公事  
根源等ノ書ニ不載イフカレク不審コソ

①由 ヲベノ字 活法ノ品不分タ 夕ベト云句一座ニ 三ツ  
又夕ト四ツセキト一ツ以上八ツシ同シ言ハ七句  
去或ハ面ツカユヘシ

一 夕端山 夕端川 暮カ、ル時候ノ山及川シ端ノ  
字ニ意ナシ但肥後国ニ夕端川ト云名取モ有シ

一 夕立 白雨ノ字ヲ用ユ事近頃森由己法橋ト云  
連哥師山谷カ詩ニ出タリトテ始テ書リト御筆ニ  
ミエタリ 白雨ト書テモユウダチト唱フル時ハ夕ユラノ  
字ニ三句立ノ字ニ二句去シ然レハ此文字ヲ書テモ  
何ノ詮ナシ摠シテ珍敷文字ヲ懷紙短冊ニ書メ  
コトシトソ中ノ院入道殿仰セラレテ曰哥道ヲ  
知ラヌ人メツラシキ文字ヲ書メカルシ古人ノ  
書レシ哥書ナトツ見候ヘホト、キスナントモ  
郭公ノ文字ヨリ外ニ古人ハツカハヌシト  
云ニ

一 ヲウツヅ 長庚星 則 ヲウツヅト訓ス 俗ニ云宵ノ  
明星シ 曉ノ明星ヲ 啓明ト云フ 同星シトソ  
大白金星ノ名アリ ツタニキニ ヲウツヅ 辰星ト云  
星ノ名シト云フ 皆チカヒトニエタリ

一 木綿附鶏 ユフツケトリ 神廟ニ放ツ 雞ニ白木綿 シラユウ シ付テ放テル  
故ニユフツケ鳥ト云 始メタルシ 今世只雞ノコトニ  
成テ哥ニモ常ノコトニ 詠侍レハ神祇ノ意  
ナシ 夜分生類ノミ

一 雪ノ山 二峯アリ 山ニ雪ノツモリタルヲ云句ハ山類  
雪ニテ築キタル山ハ非ニ山類ニ

一 雪山 天竺 前ニ鷲ノ峯ノ下ニ云加ク シラ又国ノ  
コトナルヲ以テ山類トセス

一 ヲカシキニ 戀シキ 付句打越ヲ嫌フ 一字假名ナレト  
モ耳ニタツ假名シ 敷ノ字ニハアラス

一 ヲグ 浴ノ具ト云略シ 畿内江東ノ俗 女ノ下帯ヲ  
ユグト云 元ト女ハ下袴ヲ着ル 著シ今モ上ツカカ  
常ニ下袴ヲ着シ玉ヲ然レハ 令賤女ノ用ル 脚布  
ハ上ツカカノ 浴ノ具ナルコト 掲焉シ

一 ヲフタニ 神祇 白木綿 シラユウ シ 疊重ル 意ニヤ

木綿夕、三手向ノ山ノ櫻花ヌサモ取アエス春風フ吹

一 女

名神非名取ト云コト 活法ノ書ニ伊勢ヲ天照太神  
 北野ヲ天満神ト云ハ非名取ト記セリソレハ云  
 ニモ及ハヌ事ニ應安式ニ名神非名取ト云趣  
 意ハ伊勢ノ神北野ノ神春日大明神住吉  
 大明神トシテ非名取ニ只神ノ御名シ故ハ  
 何国エ勸請シテモ其名アリ名取ニハアラスト  
 云美シ連哥等ニモ此コト昔ヨリ色ニ論有  
 皆應安式ノ見様悪キ故ニ惑説出クルシト  
 云ニ但シ伊勢ノ神垣春日ノ宮居ト其取至  
 タル眼前ノ句ハ名取勿論シ

一 名木散

九月ノ部ニ出ラ尤秋ニ是海棠桃梨  
 ナトノ秋ニ至テ落葉スル類ノコトシ然ルヲ名ノ木  
 散ナト、句ニシタルマ、アリ連哥師ニ聞クニ知ヌコト  
 シト云リ俳諧ノ巧言トシエタリハツシタル言シ

一 目サニシ州

古草紙ノコトシト云リ又茶ノ異名目  
 サニシ草ト云然ル時ハ句ニヨツテ植物

一 義

叢虫 鳴ハ秋其名ハカリハ雜ト云リ蕉門鳴ト  
 コトハルニ不及 叢虫トハカリモ秋ニ

一 簑ニ雨

二句去打越ト云ルハ非シ凡打越ヲ嫌フ

云モノハ付テ不<sub>レ</sub>苦 箕<sub>ニ</sub>雨ハ付ケヌ法<sub>シ</sub>

一 三字假名ト云コト 色<sub>ニ</sub>ノ説アリカハルトクスクルトク

類<sub>シ</sub>ト云又一説 秋ハナヲ春ハ只ナト云コトト云リ

件ノ説トモ先師 不<sub>レ</sub>得心ト三エタリ上<sub>ニ</sub>ノ三字ニナ

手尔葉ノ假名ニアラス 三字假名ト云カタシ 按ルニ

三字假名ト云ハモガナハヤレドモケレハナトノ

三字假名ノコトナルヘシ 何レモ同<sub>シ</sub>假名ハ五句七

句嫌フモガナニレドモトカハリテハ付句モカヒナシ

一 御<sub>ミ</sub>枝<sub>エ</sub>ニハラフ付テ不<sub>レ</sub>苦ト云ハ拂ノ字ノコト<sub>シ</sub>

不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>混<sub>ス</sub>

一 ミトリ子<sub>コ</sub>ニ 緑<sub>ニ</sub>ノ字不<sub>レ</sub>嫌ト云ハミトリ子ハ嬰<sub>ミ</sub>兒<sub>リ</sub>シ碧

ノ字ノ意<sub>シ</sub>トツアツタミト訓<sub>ス</sub>

一 ミヤ山 此<sub>ニ</sub>糸<sub>ニ</sub>以<sub>シ</sub>芒<sub>ツ</sub>ニクサト称<sub>レ</sub>テ祠<sub>ヲ</sub>造<sub>ル</sub>ト天照

太神天ノ磐<sub>戸</sub>ニ篋<sub>リ</sub>玉<sub>ヲ</sub>時<sub>以</sub>神<sub>ノ</sub>草<sub>ノ</sub>祖<sub>ニ</sub>テ採<sub>ニ</sub>

五百箇野ノ薦<sub>ノ</sub>ハ<sub>ヤ</sub>フタ<sub>ニ</sub>玉<sub>ヲ</sub>載<sub>フ</sub>ト云事 神代卷<sub>ニ</sub>載

レタリ依<sub>テ</sub>此<sub>ニ</sub>糸<sub>ニ</sub>假<sub>殿</sub>及<sub>幣</sub>帛<sub>ニ</sub>モ用<sub>ル</sub>芒<sub>ツ</sub>シ

ト云<sub>ニ</sub>故<sub>ニ</sub>崇<sub>テ</sub>之<sub>ヲ</sub> 御<sub>ク</sub>サト申<sub>ス</sub>トク

註<sub>ニ</sub>三<sub>ノ</sub>薦<sub>ハ</sub>ス<sub>キ</sub>シ 宇<sub>ノ</sub>真<sub>人</sub>ハ<sub>美</sub>サ<sub>ント</sub>云<sub>ニ</sub>

三<sub>ノ</sub>薦<sub>ハ</sub>ス<sub>キ</sub>シ 信<sub>濃</sub>ノ<sub>ニ</sub>ユ<sub>ニ</sub>我<sub>レ</sub>引<sub>カ</sub>ハ<sub>宇</sub>真<sub>人</sub>サ<sub>ビ</sub>ライ<sub>ナ</sub>ト<sub>イ</sub>ハ<sub>シ</sub>カ<sub>モ</sub>

一 美<sub>ミ</sub>豆<sub>ヅ</sub>ノ御<sub>ミ</sub>牧<sub>キ</sub> 野<sub>ノ</sub>馬<sub>ヲ</sub>取<sub>ル</sub>牧<sub>シ</sub>山城甲斐<sub>ニ</sub>同名有<sub>リ</sub>

ヲタミキニ水野御牧ト記ス非シ奥列ミツノ小嶋ト云  
モ此万葉書キヲ用ユ

一 <sup>ミラツクシ</sup>ミラツクシ 順ノ和名抄ニ漚標ハ水ノ浅深ヲ知ルシミヲ

シレトモ云 漚ハ水筋シ標ハ串シミヲグシシツ文  
字ハ助語シトソ貫之土佐日記ニ六日ミラツクシノ  
モトヨリ出テ難波ノ津ヲ来テ川尻ニ入ト云リ袖中  
抄ニ難波津ニ始テ立ニ漚標ヲト云ニ

難波江ノ芦リカリ子ノ一夜ユヘミラツクシテヤ戀渡ルヘキ

一 御船山 和列ノ名取シ

<sup>万葉</sup>三吉野ノ御船ノ山ニ立雲ノ常ニアラント我思ハナクニ

人丸

一 宮木引 山ヨリ材木ヲ引出スツ云ニ宮木ハ良材シ

宮室ヲ造ルニ用ユルト云義ヨリ云リ新古今ノ序ニ  
伊勢ノ海清キ渚ノ玉ハ拾フトモ盡ルコトナク和  
泉ノ杣ノシケキ宮木ハ引トモ絶ユヘカラスト云ニ  
昔ハ和泉ノ国ヨリ良材多ク出レトミエタリ

<sup>万葉</sup>ミヤ木ヒク和泉ノ杣ニタツ民ノヤム時モナク戀渡ルカモ

一 木兔 <sup>ミ、ツク</sup>猿蓑集ニ冬季ニミ、ツクノ祭句有

此モノノ季ニ用ユル沙汰ナシ猿蓑ハカリシ  
一句ノ趣意ニトラヘ取有テ冬季ニ成シ入レ  
タルモノカ化名宗匠ノ其座其句ニヨツテノ  
捌キハ格ニナラス

之

一下帶 活法ノ書ニ戀トストク結フナトシテ夜分ニナル句ナラハ句ニ依テ戀ニモ成ヘシ甚名ハカリハ非戀ニ下紐ト云句ハ大方ハ女ノ方ニツカフ言ナラトクトカストセストモ必戀ニ成ヘキシ

一男ノ下帶七夕ニ手向ルト云コトアリ 我カ衣ヲ手向ル事哥ニモヨメリ七夕ニ新衣ヲ手向テ其ヲロシテ著レハ身堅固ニ心負操ニナル呪ミジナイトツ又晋ノ阮咸七月七日豎タテ長竿ヲ標メニ太布ノ憤フツ鼻ト根レ曝ハラセニ庭中コト古書ニアリ 是等ノコトヲ云フナルヘシ

一信夫ノ囿 忍摺 奥列ノ名取シ又忍ノ囿ハ河内シ

古今集 陸奥ノシノフ文字摺誰ユニ乱レツメニシ我ナラナクニ新後撰 待人モナドカタラフテ時鳥ヒトリ忍ノ囿ニ鳴クシ

一櫛シキミノ切リ葉 櫛ヲ枝ナカラ手向ルヲ俗ニハナト云シ

又葉バカリヲ土器ニ盛リテ手向ルヲキリ葉切櫛トモ称スヘシ三輪ノ謡ニカクシモ尋子キリ櫛ツミヲ助ケテタビ玉ヘトツケタルモ切櫛ツムト云イカケタルシ又藻塩艸ニ櫛ノ青葉キリウケテトヨメリ是水ニ浮メ手向ル切葉シ切櫛櫛ツム皆釈教シ

一シビニ 無言ノコトシ源氏ニ多ク出タル詞シ

下

三



一 菖蒲谷 洛西遍照寺ノ奥ニアリ彼三位中将惟盛ノ息六代御前母トモニ隠レ居レ取レ平家物語遍照寺ノ奥小倉山ノ麓菖蒲谷ノ辺リ大覺寺ノ僧坊ニ深ク忍ヘリト云ニ

一 精進 ヲタニキ 苧環等ニ神祇ト記是取子カヒト  
三ニ御傘ナドニ沙汰ナキ事シ 神祇ノ取ニ委記ス

一 白鳥ノ鳥羽 枕言シ

ヤスラヒニ出ケン方モシラ鳥ノ鳥羽山杉子ニミツ鳴

定家卿

一 シンキト云詞ハ 辛氣シ或ハ心氣ヲ打ナトノ事シ

一 賤女 下女桂女 戀ニアラストレ又戀トス蕉門ノ

立息ハ下女モ下女ニヨリ賤ノ女モ賤ノ女ニヨル 一句戀情ノ有無ヲ以テ究ムル桂サト云ハ婚禮ノトキ竹檢ヲトツテ姫ノ輿ニ從フサヲ名ツクル

比

一 直隱 ヒタヤモリ ヒタスラ家ニ篋リ居ル居取ニ二句去

一 廣瀨 竜田 西宮シ 竜田明神ハ立チ野ト云取廣瀨ノ神宮ハ廣瀨ノ河邊トモニ大和国ニ兩神風ノ難ヲ除テ年穀豊ナラシムル神トソ日本紀ニ委

一日吉 江別志賀ノ郡山王七社ノ権現是シ七社共ニ

大己貴ノ尊オホニギハヤヒ此神七名有テ則七社トストソ其七  
名大國主 葦原醜男 大國玉 大己貴今山王七社ノ名  
大宮ニテ宮 客人ノ宮 三ノ宮 聖真子八王子十禪師  
又中ノ七社下ノ七社悉名アリテ合テ廿一社トス本是大  
己貴ノ尊ノ鎮座シ後兩部習合ノ社名廿一トナルト云シ

一 膝突ヒサツツ 半畳ノ類小丸敷物シ堂上ノ畳ジヤウニ兩脇ニ膝  
モタセ有モノアリソレヲノミ 膝突ト云ハアラス  
小畳コタタミ 円座ノ類膝突ト云シ

一 百姓 農民ヲ百姓ト云フハ農民ニハ公家ノ姓モ  
武士ノ姓モ一切ノ氏姓シセイ交リアルナレハ百姓ト云シ

一 登ノ字 ニツ 登チヤウト音ニヨミテ又一ツ有ヘシ

一 檜杖ヒヅエ 檜笠ヒカサ 釈教トスルハ是僧家ノ具ト云フ  
コトシ 釈教ニ句去ラハ可シ

一 墓ヒキカヒル 蝦蟇ナマミ 昔予浴東頂妙寺ニ招レテ俳諧セ  
シニ伊賀ノ俳士ヒキゴト、云句セリ予其席ノ文臺  
左シカハ尋ヒキカヒル之ヲ 伊賀ニテハ墓ヒキカヒルヲヒキコト、申シ侍ル  
ト云フ 国ノノ方言不可ヒキカヒル制ス 則懷紙ニ載ス  
此コトヲ江戸ニテ或ル俳子ニ談話ケレハ下總ノ  
国ニテハゴトノト云フトイヘリ 扱ハ彼カ鳴ク  
音ヒキカヒルシトシラレタリ

一 蛸ヒコシ 蟪蛄ケイコ 則ヒグラント訓スツクくボウレト鳴  
蟬ツクハシ 三才圖會ニハ蟪蛄ト蛸ト別シヒクラレハ  
山中ニノミ有テ日ノ没イリニノミ鳴クト云リ又藻塩草  
ニハ秋ニ成テ鳴ク蟬ヲ蛸ト云ヒト云ニ

一 **毛** 紅葉 散初ハ冬 カツ散ハ秋ニト云意ハカツチルト云  
未タ散レシキ節ナレトモサニ散シ散初ハ其時節  
至リテ散ハムルニ依テ冬

一 求子モトメコ 活法ノ書是ヲ神樂ト心得テ神祇冬夜分  
ト記ス 神樂ニアラス 深産秘抄ノ神樂ノ部ニ  
求子東遊ト云モノナシ 只神前ニテノ謠初然ハ

冬ニアラス夜分ニアラス神祇ノミニ駿河舞ナント  
云モノ此類ニ

一 虎落モカリ 何レノ書ニモ此二字シ 芭ノ字モカリト苧環ヲタマキ  
出セリ 芭ハマカキシモカリノ訓イブカシ

一 最上川モカミ 出羽国ノ名取シ  
古今モカミ河ノホレハ下ルイナ船ノイナニハアラス此月ハカリ

一 望月 二義アリ 十五夜ノ月ト信列ノ名取トシ  
其句意ヲ能ク聞届ケテ去嫌フヘシ名取ノ望月  
ハ野馬ヲ取ル牧手シ望月ノ駒尤秋ニ彼貫之ノ

望月

望月

相坂ノ關ノ清水ニ敷ミエテ令ヤヒクラン望月ノ駒  
ト云哥ヲ八月十五夜ノ哥ト心得タル人ニアリ大キニ  
非ニ駒牽ノ下ニ委記ス望月ノ駒ヒキハ八月廿三日  
ニ此貫之ノ哥則信列望月ノ牧ヨリ禁裏ニ  
献スル駒ヲヨメルノニシ安レテ月ノ哥ニハアラストソ

一世

一セコセナトモニ夫ヲ云シ

衣通姫

我セコが来ヘキ宵ニサカノクモノスレヒ兼テシルシモ  
伊勢物語 夜モ明ケハキツニハメナデクダ家難ノニタキニ鳴テセナヤリ

一旋人

釈教又倫トスアミ子ク僧家ニ尋ルニ此名  
アルモノナシ行堂又ノコトナルヘレトソ行堂ヲ旋

行者トモ旋轆トモイフト云ニ

一仙洞霞ノ洞 蕨姑射ノ山 是天子ノ御隠居ヲ奉

祝シ仙境ニ比レテ名付ルモノニ 搥ノ内裏ヲハコ

ヤノ山ト申ス別シテハ仙洞ノ御コトヲ云リ是則

仙境ノ名ニ 莊子ニモ蕨姑射ノ山ニ神人アリト出タリ

幾千度浦嶋カ子ハ帰トモハコヤノ山ハ常盤ナレシ 俊成卿

一仙人 山ニハカリ住ムモノニアラサル故ニ非ニ山類ニ又仙

境ハ人間界トハ別ナレハ人倫ニモアラス

一寸

一スゴサス 春ニ至テ鷹ヲツカフニ鷹ノ鈴

ノ鳴ナリヌヤウニ鈴ノロエ子ヲサスコ是鷹匠ノ故實コ

一 松ノ窓 是強窓チカチニ限ルニテモナシ只杉檜ナントノ  
茂ル取ノ木深キ住居ヲ云シ然レハ居取シ植物ニ二句  
去シ活法ノ書非ニ植物ニトスルモノ不ニ心得

一 住吉ノ神 非ニ名取ニ名神非ニ名取ニノ取ニ委記

一 諏訪祭 雜シ信別諏訪明神ノ祭禮一ケ年ニ  
七十五度アリトソ依テ季トセス

一 スバノレノヤ 篠スノ篠屋シヤシ重子詞シスバノレノ同物シ

スバノレノ原ナトモヨメリス篠ハ小コ篠サノ類シ  
新新古今常ヨリモシシヤ軒ノ埋モル今日ハ都ニ初雪ソス

一 スゴ 人倫 從ス子ゴシ從ズ者サトモ奴僕ノコトヲ云シ

一 菅原ヤ伏見 大和ノ国ノ名取シ菅原ハ則菅家ノ  
御在所シ其引ツキニ伏見ト云里アリ山城ノ伏見ハ別シ  
古今イサ爰ニ我カ世ハヘナシ菅原ヤ伏見ノ里ノアレクモシ

一 スサブト云詞 風ノ吹アルコトニモ用ヒ又止ム方ニモ  
用ユスサブハ荒ハノ字シ荒ノ字ヲタル意モアレハ  
止ム意ニモ用ユルナレレ

篋 籟 輪 卷之六 方竟千梅選

活法之書 神祇 釈教 戀 無常

人倫 居取 夜分 山類 水辺

等之部ニ在ル物抜記

神

カタクギ 日本紀千木ノ偏カタソギ 又形祖木トモカトモ 加棟  
木キ 勝雄木トモ云 神宮ノ棟ノ飾ニ伊勢出雲八  
幡ハチマタ 摠トモ テ宗廟ニ限テ有レ之ト云リ然ルニ今取ミノ  
神宮ニ普ク作レ之ヲ

一 忌サス 忌竹シ 是如茂ノ祭ヨリ始ルトソ依テ何ノ

7  
F

11

神社或ハ祭祀アル家又村ノ入口等ニサスモ皆  
夏季トス加茂ノ神事ニハ早ヤ三月尽ニ挿<sup>サス</sup>之ヲ  
カヘル春卯月ノ忌ニサシコメテシバシ御生<sup>ミアレ</sup>ノ程ニテモミン

一 駒犬

書ニ説多ク或ハ神功皇后三韓退治ノコトニ  
附會シテ高麗犬ナト、書キ又ハ天犬ナトモ云リ  
皆非シトソコニ犬トハ戸前ノ犬ト云義シ犬ハ能ク守リ  
防ク獸ナレハ非常ヲ防カレムル為ニ其形ヲ刻ミテ  
神社ノ戸ノ前ニ立之ヲ依テ其名ヲ呼シトソ紫  
宸殿清凉殿ノ御帳ノ下ニモ有又御即位ノ時  
兼明門ノ前ニモ立之ヲ以紫銅<sup>カラウチ</sup>ヲ鑄タル駒犬シテ予  
親見<sup>ミタリ</sup>之ヲ源氏榮花物語等凡帳ノ傍ニモ置<sup>カ</sup>

之ヲコト取ニミエタリ皆戸前ノ犬ノ意ニ

一 フハラゴ

太神宮ノ神饌ニ奉仕スル小女シ昔ノ齋  
宮ノ如クニハアラス齋宮ノ御コトハ九月野ノ宮ノ下ニ委  
記スフハラゴトハ俗言ニシテ本称ハヲコラゴシ伊勢  
神宮ノ内ニ子良物忌ト称スル社家廿七八家有  
其娘ヲ以ニ神鬘<sup>ミカガ</sup>ヲ備<sup>ツ</sup>之ニ其父母共ニ居スル室殿  
ヲ子良ノ館ト云フ是則神樂殿ニ依テヲコラゴハ  
御神樂子ノ訛言シトモ云リ又按ニ日本紀<sup>サレ</sup>猴<sup>サメ</sup>ヲ  
上祖<sup>トヲアラヤ</sup>天ノ鈿女<sup>ニメ</sup>ノ命<sup>ミコト</sup>神樂ヲ主<sup>ツネトリ</sup>玉<sup>タマ</sup>ヲ神<sup>カミ</sup>シ猴<sup>サル</sup>サト  
云ハ則猴<sup>サル</sup>良<sup>ラ</sup>シ今ノ子良物忌ハ皆其裔シトソ  
古翁山田ノ吟

ヲコラゴノ一本<sup>モト</sup>ユカレ梅ノ花

是太神宮ノ宮地ニ梅甚タ稀シ子良ノ館ノ後ニ  
只一モト有リトイハ此吟アリト云ニ又按ルニヲハラ  
子トハ御<sup>ヲハラヘ</sup>後子ノ略ナラシ然レハ俳諧ニハヲハラゴトモ  
スヘレ俗言シトモ世ニ久レク云習イタルコト最可用之ヲ

一 夏神樂川社 是邪氣災難ヲ除<sup>ユル</sup>為河辺ニ假

社ヲ作テ後スルニ厄氣ヲ祓フ神祭シ菰枕ハ神  
樂ノ謠物ニウタヒ物數多アル中菰枕夏神樂ニ  
ウタフトミエタリ菅貫六月ノ取ニ委記

一 御贖物<sup>ミアガモノ</sup> 俗ニ願ホドキト称レテ神エサケモノスル

是シ宿願成就セレヲ悦<sup>アガヒイサスル</sup>テ贖奉物シ

一 廿ハエナス神 神代卷ニ螢火光神<sup>ホタルビカヤク</sup> 蠅聲邪神<sup>サハハナスアキ</sup>

ト有リ邪神如蠅ノ集ルト云 蠅ハ假令<sup>カタヘ</sup>シ生類トス  
ヘキニアラサレトモ季ヲ持ツ故ニ生類ト云シ虫類  
打越禽獸ニハ不去嫌

一 榊 山中ニアル榊ナレハ其名ハカリハ非<sup>ニ</sup>神祇ニ云ルモ

一理ナレトモ俳諧ノ句ニ出<sup>ヌ</sup>之ヲモノ神祇ノ趣意ナ  
ラテ可出ヤウナシ然レハ榊トハカリモ神祇ナリ  
延喜式ニ賢木ト書リ榊ハ俗字シトソ俗字ナレトモ  
神ノ木ト書是其名ハカリモ神祇ナル證シ



一 ヒモロキ 二義アリ 神饌ヲ云時ハ昨ノ字 又  
 日本紀ニ神籬ノ二字ヲヒモロキト讀セタリ是ハ三ツ  
 ガキシ神ニ饌<sup>イカキ</sup>モノト神ノ瑞籬ト而義ヒモロキシ

一 廣前 是又二説アリ 神前ノ白砂ヲ云或記住  
 吉ノ神祠ニ詣<sup>ヒコヒ</sup>ヒコヒニ跪<sup>ヒツキ</sup>テト云是シ又ヒコヒト云  
 ハ神衣ニシテ子長衣ト云シトモ云リ

天ノ下ハグム神ノ御衣ナレハユタケニゾタツニツノ廣前

一 ナゴシノ被 二義アリ 復越 和難シ但二義一意シ  
 先ツ四時ノウツリ行相尅ヲ云時秋ハ金冬ハ水ニテ  
 金生水シ冬ノ水ニ春ハ木ニシテ水生木シ春ノ木ニ夏

火ニテ木生火ト皆相生ス然ルニ夏ノ火ニ秋ノ金ハ  
 火尅金ニシテ相生セス故ニ夏秋ノ堺ニ至テ天地  
 相和セス暴風 洪雨 起ツテ五穀成熟セス依テ神  
 被シテ能ク相和セシメテ夏ヲ越ルヲ復越ト云シ又  
 陰陽和合セサル故ニ惡氣行レテ人民病悩ス依テ其  
 厄氣ヲ和難<sup>ナゴシ</sup>シ被シ凡此水無月被諸社行<sup>ラ</sup>之  
 中ニ糺<sup>タス</sup>ノ社下加茂<sup>ノ</sup>被<sup>ル</sup>殊ニ嚴重シ六月十九日始<sup>ツ</sup>テ  
 同晦日ニ至<sup>ル</sup>晦日ヲナコレノ大被ト云シ此神被ノ間ヲ  
 糺<sup>タス</sup>ノ涼ト称シテ浴中ノ貴賤群衆レ河原ノ茶店ニ納底  
 祇園會ノ河涼ニ又ヤウカハリテ氣色濶然シ

一 常陸帶 <sup>ヒタチノサビ</sup> 麻嶋ノ御神事 正月十日ニ麻嶋大

神宮武甕槌ノ命<sup>タケミカヅチ</sup>春日大明神四座ノ一社は是<sup>シ</sup>

一イモイ 神道ノ忌詞ニ精進ノ事ヲイモイト云リ則齋<sup>イモイ</sup>

齋忌精進ノ字共ニイモイト訓スサレハ精進ト云詞神  
道ニ普ク用ルニヤ佛經ニモ無量精進ト説リト云ヘレハ  
モトヨリ神釈共ニ精進アリト見ユ今佛家ニ魚肉ヲ  
断ッテ勤メ行フヲ專ラ精進ト云類<sup>シ</sup>ソレ於法<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>深  
精ト云イ念<sup>ニ</sup>趣ラ求ラ曰進<sup>ト</sup>凡<sup>ク</sup>處<sup>ニ</sup>其事<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>他精  
進ト云トナレハ神釈ニ限<sup>ル</sup>コトニモアラサルヘシ然レハ  
蕉門俳諧ニ精進ト云時ハ神釈カミヒナシ只イモイ  
ト云詞ノ三神祇ト心得ヘシ

一船玉 船ノ神<sup>シ</sup>本朝ニ所<sup>レ</sup>祭<sup>ル</sup>猿田彦ノ命<sup>サルトヒコ</sup>中華ニハ

鷗耳神<sup>コウジ</sup>孟公孟洗トモニ船ノ神<sup>シ</sup>又琉球記ニ天妃  
菩薩船<sup>シ</sup>竟<sup>シ</sup>ト云ニ是海神<sup>シ</sup>常陸国水戸ノ府  
浦中ノ湊ト云取<sup>ニ</sup>黄門光国卿<sup>ノ</sup>令祭<sup>ス</sup>之ヲ玉ヲ天  
妃山大権現ト称ス

一ヨルベノ水 神前ノ甕<sup>カマ</sup>ニ入<sup>レ</sup>名<sup>ケ</sup>水<sup>シ</sup>ヨルヘト云フ名ヤ摠

シテ神<sup>ニ</sup>ヨルト云事多<sup>ク</sup>説宣ト云フモ人ノ口ニヨリテ  
神ノ宣<sup>シ</sup>神子ヲヨリキト云モ其意<sup>シ</sup>トソ此水諸  
大社ニ皆有<sup>之</sup>トイヘトモ只神水ト称スヨルヘノ水ト云名  
目ハ加茂ノ社ノ神水ニ限<sup>ル</sup>コトトカヤ俊成卿定家  
卿モ此説ヲ用イ玉ヲ源氏幻ノ卷ニ  
サモコフハヨルヘノ水ニ水草<sup>ミソクサ</sup>井メ今日ノカサレヨ名サヘ忘<sup>ル</sup>

是紫ノ上 卒シテ後彼家ノ中將ノ君ト云母加茂ノ  
 祭ノ日ウタ、寐シ居名取ニ葵カツラノ有ヲ源氏  
 取玉ヒテイカニ此カサレヨ名サヘ忘レニケリトアリシニ  
 中將トリアエス讀レ哥シ註ニ此哥ヨリ先キヨルヘノ  
 水ト云コト古キ哥ニモミエト云ニ此後嘉應ノ頃住吉ノ哥合  
 月影ハサエニケラレナ神垣ヤヨルヘノ水ニツラ、井ルニテ清輔  
 俊頼卿判ニ曰ヨルヘノ水ト云コト源氏ニサモコソハ  
 ヨルヘノ水ニ水巾井メト詠ル外古キ哥ニモミエ侍ラス  
 是ハ加茂ノ祭ノ日ヨメルモノゾト有リテサテ此住吉  
 社ハ海ノ面氷ヲミカキ濱ノ真砂玉ヲ敷ラシテハ  
 打ヲキテヨルヘノ水ニ月ハサエケラシト思ハシコトマイカ  
 ト云ニ此判者モ加茂ニ限ルヲ取申サルト三エタリ

一 庚申待

神祇ニ出セリ是更ニ神道ノ事ニアラス  
 唐土ニテ仙道ヲ信スル者ノ云出シタルコトニレテ且テ  
 實ナキ事ニ勿論其神ナシト云ニ故事要言等  
 ノ書ニ委ツアリ可見然レトモ本朝ノ俗祭テ之日  
 待月待ト同クス依テ世俗ノ用ヒ行フニ俳諧ニ  
 モ神祇ニ出シタレハ其分ニモスヘシ但打越ヲ去ラ  
 ハ可シトスヘシ

一 神樂堂

昔翁叅宮ノ時山田ニテ俳諧アリシニ  
 神樂堂ト云向セラレシヲ後ニ御師何某難ノ曰  
 世ニ俳諧ニ鳴ル芭蕉モ其道ナラヌコトハ不案内  
 シ堂トハ吾カ神道ノ詞ニアラス神樂殿トコソ

有へキナレト云リ此事翁ニ告知ラセタル者アリ  
翁ノ曰其神職ノ人神學ニ達セえへケレトモ俳  
諧ノコトハ習ナクテ學文ニテハナドテ知えへキノ神  
樂殿ハ俳諧ニアラス神樂堂ト云コソ俳諧平  
話ノ句法ナレ凡吾ハ俳諧習ハ平話俗譚ノ世言  
行ル取ラ直ニ云出スヲ以テ道トス文學ノウヘニ  
カハルコトニアラスト申サレケルトコソ是万事ニワタ  
リテ甚々感有ル事今神祇ノ部記スルニツイテ  
思出之ヲ、爰ニ書ス

一 釈

一 法印法眼 尤僧官ニテ釈教シ又醫者繪師等  
モアリ俳諧可得其意ヲ

一 厨クリハ 庖厨ハウキウトツキテ庖イキハ宰殺サイ厨クリハ烹飪ニヤキ

スル取ナレハ只臺取ノコトシ然ニ今クリト云ハ  
僧家ノ臺取トノ三覺エテ俗家ハ通セス依テ釈  
教トス但シ香積厨ノ三字或ハ庫裏ノ字ヲ可用

一 眠藏スガク 僧ノ寢取シ

一 頭陀トウダ 僧ノ梵名シ又杜ツダ多ト書ケリ

一 鏡鉢キョウハチ 二種シ鏡ハドラ則銅鑼シ鉢ハ銅鉢シ

同器ヲ合テ鳴スモノシ此二種ヲ俗合セ呼シテ  
一種トヲモヘリ謬シ

戀

一 恨ノ山 ウラミノツモレルヲ山ニ喻エタル詞ニ又名

取ニモ有 信濃国シ

夫木 タツ子ハヤ心ノ末ハシラストモ人ヲ恨ノ山ノ通ヒ路 為定

一 夢 活法ノ書皆戀ノ部ニ記セルヲ以世上夢ト

サヘ云ハ戀句ト思ヘリ 蕉門ニハ捻シテ文字ヲ

以テ戀トハセス只其句情ヲ用ルシ 姫娘野良傾城

夢涙句ニ依テ戀ニナラヌモノ多シ 其中ニ夢ハ

殊ニ戀ニナラヌ夢トアリ 可吟味ス

一 化アタクアタラアタベ 實情ハウスクヒテ互ニ恨ニツ恨ミレツ

哥ナト讀カハセルヲ云シ 伊勢物語ニ吹風ニコソノ

櫻ハ散ラズトモアナ頼カタ人ノコロハ 女返レ行ツ

水ニ數書ソヨリモハカナキハ思ハヌ人ヲ思フシケリ

ナト云贈答數首アリテコト書ニ化アタクアタラアタベカタニ

シケル男ヲシナノ恐ヒアリキレケルコト成ヘシト云ニ

一 夕卦トフト云ハ 夕ユヅノ卦ヲ尋ヌル 白ウラ方カタシ

一 虫ノ印 梅ニ守宮イモリノヒレシノコト成ヘシ 壁虎龍

盤魚トモニイモリト訓ス 其血ヲ取テ 女ノ身ニ点

ズルニ洗アソビ落セトモヲチヌ 媼事アレハ 忽チハゲ落ツ

故ニ印トス之ヲ 女ノ室宮ヲ守ルヲ以 守宮ト云フト

守宮

守宮

淮南子博物志等ノ書ニ出ツ虫ノ印是ヲ云フ  
ナルヘシ但シ外ニ虫ノ印ト云戀ノ古事古哥ニ  
テモ有ヤ可尋

一 脱ク嘗ノ重ナル上ヲサナルハ守宮ノ印イモリ甲斐ヤナカラシ

一 水祝 正月ノ季ニ水カケノ祝トアルモノ是レ冬妻ヲ  
迎ヘタル男ノ家ニ酒肴ヲ携タ行テ水ヲ祝ヒ浴セル  
コト也昔東武ニ殊ニ盛ニアリテ互ニ恐ラシク讎ヲ含ム  
基トナリ喧嘩鬪争不止依テ今世嚴キヒシキ制禁ト成テ  
水浴セノ名ノミ人知レリ

一 思ヒサシシ 年来深クタノメタル中ノ人ノ中言カ又  
思ヒノ外ニ化ナルコトアリテカ其思ヒノ忽サメタルシ

一 背ソムキノ中 是モ年コロ深ク思ヒカハシタル中ノ互ニ心  
中ニ恨ムコト出来テ解サルシノヨリ何事モ背ソムキクニナルシ

一 ウシロメタキ 我心ト了簡シテ物ゴトナグリニ済セ  
トモ猶思ヒカヘセハ妬チタキ心シ後妬ウシロメタキシ子トメト通語  
ナレハメタキト云シ伊勢物語ニ昔男色コノミト知  
クサヲアヒイヘリケルサレトモ憎ニラハタアラサリケリ  
數イキケレド猶イトウシロメタクテ未略

出テコシ跡タニイマタ替ラシテ誰カ通路ト今ハナルシ

一 近ニサリ 近ヲトリ トモニ遠見ニテハ不知 近ク寄  
添ヒテ見レハ一サリヲトリ有リト云言シ 又能ク馴  
近ツキヌレハ人ノ本情ヨク顯レテ心ノニサリヲトリ  
モ知ラレト云意ニモイヘリ

一 古サル、 洗石ニアキアカレタルニハアラ子ト自然ト  
薄クナリ又不思ニ新シキコト出来テイツトナク  
薄ク成行タル戀シ  
頓阿

フルサル、身ニウキ秋ハツモレトモ我思早色ハカハラス  
此哥戀哥ノ手本トソ人ハ我ヲ忘ルトモ我レハ  
忘レシト云カ風雅ノ本情戀哥ノ本意ト 古人  
皆評シ之ヲ俳諧ノ句意尤同之ニ

忘ラレ、身ヲハ思ハス誓ヒテシ人ノ命ノヲシクモ有カテ  
是又戀哥ノ手本右ノ歌ニ同シ  
右邊

一身ジロキ 身肌白キト云一義 又源氏物語ニ取ニ  
出タルミジロキト云詞ハ身退ノ略シ若菜ノ卷ニ  
大キナル猫ノ追ツキテ俄ニ翠簾ノツマヨリ走り出ニ  
人ニツヒヘ騷キテソヨク身ジロキサマヨフ氣  
粧トモ衣ノ音ナヒ耳カシメシキ心地スト云ニ

一 親避中 此詞モニ義アリ假令親トサカヒテモ  
我思フモノニソヒトグベキト云一義 又深ク思ヒカハ  
セトモ親ノ副シ避テアハレスト云一義シ

ワカ下

万葉  
東路ノ佐野ノ船橋トリハナシ親シ避レハ妹ニアハヌカモ  
是親ニ割セラレテアハレヌ哥ニシ文字ハ休メ字ニ  
親ノ避レハ妹ニアハヌトシ

無常

塩干山 名取ニ茶毗取シ因未<sup>タ</sup>勤ト云リ万葉ニ哥アリ  
生死ノフタツノ海ヲイトヒ来テ塩干ノ山ヲ恐ヒツルカモ

一 アダシ野 非名取ニイツクニモアレ茶毗取ヲ指テ云シ  
化野ノ露 鳥辺山ノ煙トツケタル鳥辺山ハ洛東ノ  
名取ニテ茶毗取シアダシ野ハ無常取ヲ指テ化野ト云義シ

一 墓参リ 盆會ヲ主トスルニ依テ秋季ニ

家ハミナ杖ニ白髮ノ墓参リ芭蕉翁

一 魂ムスロ 俗ニ人魂ノ飛フヲミル時下ガノ裾ヲ結フト云シ  
魂ハミツ主ハ誰トカ知ラ子トモ結ヒハ留ツ下カヘノツニ

一 古キ枕古キ衾 <sup>フスニ</sup> 哀情シ源氏葵ノ卷ニ古キフスニ古キ  
枕誰トトモニカト云取ニ白氏文集ヲヒケリ鴛鴦ノ  
瓦冷ノ霜ノ花重シ 舊キ枕故キ衾誰與共ト云ニ文  
集異本アリテ翡翠ノ衾寒ノ誰与共ト云本有  
古文真室ニ載スルモ如此ニテ古枕古衾ノ句ナシ

述懐

一 ミツワグム 極老ノ姿ヲ云 莊子ニ支離ト出タルモノ



龍下ニタレテ 膝ト腰ト首トニツ組合セタルが如キノ  
者シ依テ支離ノ二字ヲミツクムト訓セリ 左カニリ  
タル姿則如此ナレハ哥ニ極老ノ姿ヲミツクムト讀モ  
其元ハ莊子ノ本文ヨリ出タルヘシ  
後撰 年フレハ我黒髮モ白河ノミツクムニテ老ニケル哉

一 命ノ字 一字ハナレテハ非述懐ニ露ノ命或ハ命ツ  
ナキナント云ハ述懐シ

一 世帯 古家 句ニ依テ非述懐ニ句措テ可吟味ス

一 人ノ字 師ノ字 者ノ字 士ノ字 付クモノ皆人倫シ

一 僧ノ名 凡僧ノ名ハ和漢トモニ皆人倫シ 一宗ノ  
関山或ハ国師号大師号アル僧ハ名ヲ云イテモ  
非人倫ニ只僧トハカリモ非人倫ニシ

一 吉野国栖蝦夷ハ人ノ字イハストモ人倫シ

一 居 母家シシモヤシ只賤キ家ヲモ哥ニモヤ  
トヨメリ又廈屋シトモ云リ 廈屋ハ四方ニ軒  
アルヲ云トシモヤノアメリト哥ニヨメリアメリ  
トハ雨ダリノコトシ

一 河屋 俗ニ破風ナキ家ヲアツニ屋作りト云

爾雅ニアツニヤハ四柱屋ノ戸壁ナキヲ云トソ江  
次才ニ字合屋ト書テアツニヤト訓セリ

夜

一 有明残及残月 皆夜分ニ 慥ニ朝時分ノ句ハ夜  
分ノガレコト勿論シ

一 霰走リ アラレ カサレノ綿 正月十五日ノ夜ニ則正月踏  
哥ノ取ニ委ク記

一 蠟燭 トボシタル句ナラハ夜分其名ハカリハ非夜分  
ト云モ一理ナレトモ是等ノ類物ニヨルシ或ハツケ木  
ナンド云モノハ火ノ燒付ニ昼モ用ユ蠟燭挑灯

一 ナト云モノハ昼且不用モノニ盗人狐等昼モ已  
トモ夜専ラナル故ニ急度夜分ニ蠟燭モ此類  
シ但シ蠟燭屋ナトハ句ニヨルヘシ

一 紐 ヒモ 活法ノ書夜分ノ取ニ出セリ是心得違シ女  
ノ下紐ノ論ト混ノ書タガヘタリトミエタリ 紐  
非衣類ニ非夜分ニシ

一 油突 アラツキ カハラケノコトシ 油盃 ツギ ノ字宜シトソ油續 ツギ ハ  
油サシノコトシ 近頃狂哥ニ  
物ノ名モ取ニヨリテカハラケノ油突トモ又御盃 キヨガイ トモ

一 其曉ト云詞 非夜分ニ 弥勒出世ノ曉ノ下成ヘシ

一 禱シト子 非夜分ニ 尊貴ノ人ノ常ニ敷ク布圍シ

一 夜ヨブリ 夜方水边シ 川カト照射シ 闇夜ニ炬タケヲ灯トモテ

河魚ヲ取ツ云則漁炬ノ字ヨブリト訓ス

水

一 住吉ノ神 非水边ニ 名神ノ取ニ委記

一 八瀬 名取ノヤセハ非水边ニ 矢瀬トモ書リ

一 佐野ノワタリ 活法非水边ニ 取ニ出セルハ駒トメテ

袖ウチ拂フ陰モナレ佐野ノワタリノ雪ノ夕暮ノ哥  
佐野ノ邊ホトリト云意シト註セリ是ヲ以テ非水边ニ  
トスルカ

一 淀 ヨノ字ノ部ニモ淀船非水边ニト出セリ淀ハ  
水流ノタルム取シ又名取ノ淀モ水郷シ何レモ水  
边勿論ナルヘシ

篋纒輪 下終



治

建治應あ乃式冬幹一り東や此  
 よ葉代くニ増補一々牛此角  
 乃尖子一原白も如く輝のさ一合  
 々如一む人もの葉世如くまままの  
 中よも紅一考さし如く此も一  
 爰り河東の方竟使はる免屋うふ

足と控めて千筋糸のむとほり  
を原と解き甘藷と嚼く佳境  
入れえふ入かおとちあよへ  
漢てい書申おの侍うる重玉は  
るりともくんと用云

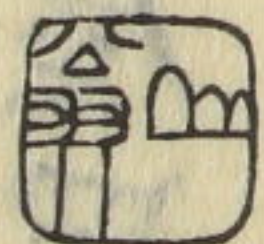
武江隱士 松籟菴秋瓜誌



省寶曆第三 癸酉歲孟秋

方竟叟千梅

於江東閑窓選之



カシ下

六六

書肆

皇都京極通二條上

井筒屋庄兵衛

二條通寺町西<sup>江</sup>入

柏屋四良兵衛

達仁寺町四條下

加賀屋宇兵衛

氏家所藏

昔實錄卷之三

